取扱説明書 - ネットワーク編

HITACHI
Inspire the Next

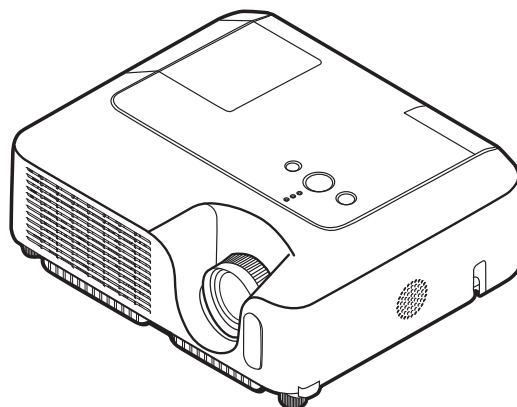
液晶プロジェクター

型名 **CP-X268A**

CP-X268AJ

このたびは日立液晶プロジェクターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

最初に 本書では、ネットワーク関連機能のみを説明しています。
他の操作方法については、プロジェクターの「 取扱説明書 」を参照ください。

• ネットワーク機能を使用する前に、この「 取扱説明書 」をよくお読みになり、プロジェクターが正しくセットアップされていることを確認してください。
• お読みになった後は大切に保管してください。

この取扱説明書の印刷には、植物性大豆インクを使用しています。
この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

もくじ

使用上のご注意 ＜必ずお読みください＞

SD メモリカード、ワイヤレスネットワークカード、USB メモリの抜き差しに関する制限事項

SD メモリカードや USB メモリを抜き取る前に、プロジェクターの MIU メニューの「特殊な設定」から「USB メモリ取外し」、「SD カード取外し」、または「全メディア取外し」の機能を実行してください。
ワイヤレスネットワークカードを抜き取る前に、プロジェクターの電源を切ってください。
（カード上の LED が点灯していないことも確認してください。）

その他のご注意

■ 同梱している IEEE 802.11g ワイヤレスネットワークカードは、2.4GHz 帯域の電波を使用しています。

特に無線局の免許は要りませんが、下記の内容をご理解のうえ、ご使用ください。

●次の電波を利用する機器の近くでは、使用しないでください。

・電子レンジ
・産業・科学・医療機器
・特定小電力無線局
・構内無線局

電波の干渉により、通信速度が遅くなったり、通信できなくなる可能性があります。

●お使いになる場所によっては、電波の状態が悪くなり、通信速度が遅くなったり、通信できなくなることがあります。

特に、鉄筋、金属、コンクリートなどは、電波を通さないため、ご利用の際は、ご注意願います。

●使用できるチャンネルについて

2.4GHz の電波を使用しますが、国や地域によって、使用できるチャンネル（実際の周波数範囲を複数に分けたもの）は異なります。本製品では、同梱された IEEE802.11g ワイヤレスネットワークカードとの組み合わせにより、国、地域によって使用可能なチャンネルは、下表のとおりです。ご確認ください。その他の国については販売店にご相談ください。

国や地域	使用可能なチャンネル
日本	1 ～ 11
アメリカ	1 ～ 11
台湾	1 ～ 11
フランス	1 ～ 11
カナダ	1 ～ 11
イギリス、スペイン、ドイツ、イタリア、 オーストリア、スイス、ベルギー、スウェーデン、 オランダ、ポルトガル、デンマーク、 フィンランド、ギリシャ、ノルウェー	1 ～ 11

●指定された国以外に、ワイヤレスネットワークカードを持ち込むことはできません。その国の電波法に抵触する恐れがあります。

1. 主な機能

1.1 PC からの画像を表示する（“ライブモード”）

プロジェクターに内蔵された MIU (Multi Information processing Unit) の主な機能の 1 つに“ライブモード”があります。“ライブモード”機能を使うと PC に表示されている画像を取り込んで、その画像を有線 LAN または無線 LAN 接続を介してプロジェクターに送信することができます（図 1.1.a)。PC 画面の画像をキャプチャする場合は、“MIU LiveViewer”という専用ソフトウェアを使用します（🕮44)。

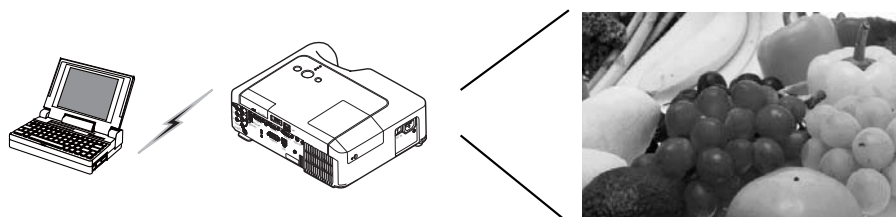



図 1.1.a キャプチャ画像を“MIU LiveViewer”からプロジェクターに出力（無線 LAN 接続時）

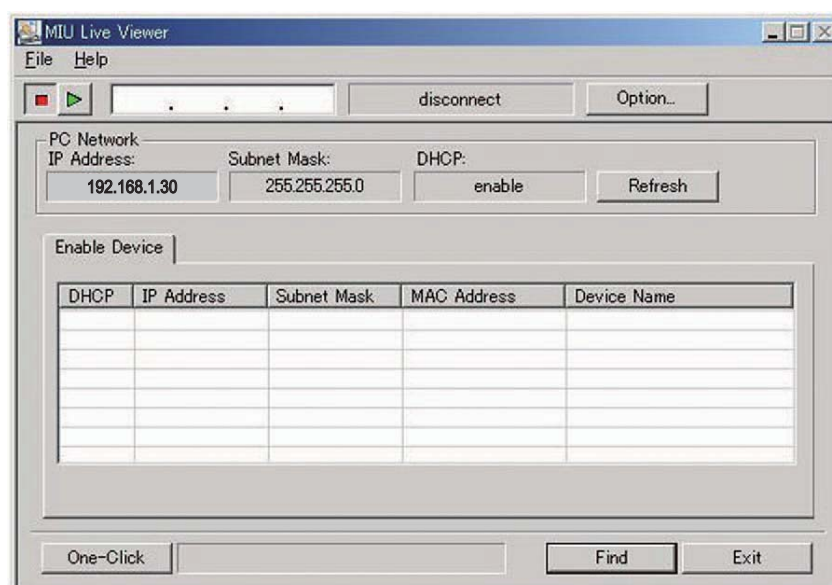



図 1.1.b “MIU LiveViewer”の画面

“MIU LiveViewer”を使って 1 台のプロジェクターから最大 4 台までの PC に接続することができます（🕮54)。

1.2 SD メモリカードや USB メモリに保存されている画像を表示する（“PC レス プレゼンテーション”モード）

MIU のもう 1 つの主な機能に“PC レス プレゼンテーション”があります、この機能を用いて、SD メモリカードや USB メモリに保存されている画像をプロジェクターに表示させることができます（図 1.2.a）。“PC レス プレゼンテーション”モードには次の 4 つのモードがあります。

1) サムネイルモード： 複数の画像のサムネイル（縮小した画像）を同時に表示します。
2) 全画面モード： 1 枚の映像または動画を画面全体で表示します。
3) スライドショウモード： 一定間隔で次々に画像を表示します。
4) ディレクトリモード: メモリに保存されているディレクトリおよびファイルの一覧を表示します。

[使用可能なメモリの種類について]

-SD メモリカード（SD カード）
-USB メモリ（USB フラッシュメモリ、USB ハードディスク、USB メモリカードリーダ）

図 1.2.a “PC レス プレゼンテーション”の画面

“PC レス プレゼンテーション”機能の操作は、リモコンまたはプロジェクターの各ボタンを用いて行います（📖56“PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編）。
図 1.2.b に示す Web ブラウザによるリモートコントロールで“PC レス プレゼンテーション”機能を操作し、画像の選択、ページの切り替え、表示モードの切り替えが行えます。Web ブラウザによるリモートコントロールで“ライブモード”と“PC レス プレゼンテーション”を切り替えることもできます。

1.2 SD メモリカードや USB メモリに保存されている画像を表示する
（“PC レス プレゼンテーション” モード）（つづき）

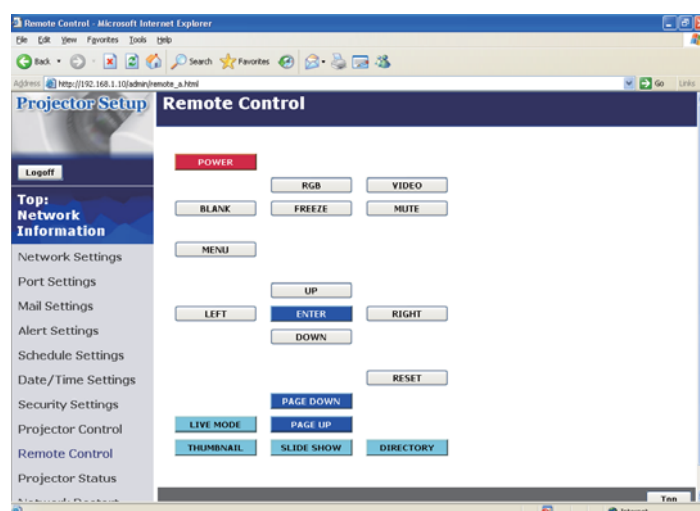



図 1.2.b Web ブラウザでのリモートコントロール

お知らせ ● “PC レス プレゼンテーション” モードでは、ファイル名とディレクトリ名が以下のように制限されています。
(1) プロジェクターの言語設定が日本語に設定されている場合：
　半角英数字および日本語の漢字以外は使用できません。
(2) プロジェクターの言語設定が日本語に設定されていない場合：
　半角英数字およびラテン系アルファベット（Latin-1 コード：アルファベットと西ヨーロッパの特殊文字）以外は使用できません。
● USB ハードディスクに AC アダプタが接続できる場合は AC アダプタを接続して使用してください。

2. 機器の接続とネットワーク設定について

2.1 必要な機器について

プロジェクター 1 台と PC1 台の間での接続には、以下の機器が必要です。プロジェクター 1 台と PC 複数台の接続については、4.1 項で説明します。

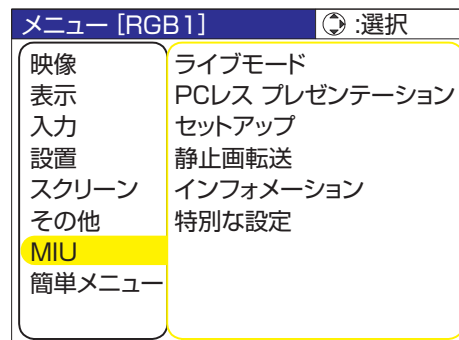
液晶プロジェクター 1 台
PC（“ライブモード”を使用するためには“MIU LiveViewer”をあらかじめインストールしてください。）
PC で無線接続を行うには、IEEE802.11b または g の無線 LAN 機能（内蔵あるいは外付け）が必要です。
PC に無線 LAN 機能が搭載されていても、プロジェクターと一部の無線 LAN 装置や無線 LAN 内蔵 PC との間で正常に通信できない場合があります。通信問題の発生を防ぐために、Wi-Fi 認定の無線 LAN デバイスを使用することをおすすめします。
LAN ケーブル（有線接続に必要）*1
ワイヤレスネットワークカード（無線接続に必要）*2
SD メモリカードまたは USB メモリ（“PC レス プレゼンテーション”に必要）
*1: CAT-5 LAN ケーブル
*2: 無線 LAN 接続をインフラストラクチャモードで使用するときには、無線 LAN アクセスポイントが必要です。

2.2 “One-Click”機能で自動的にネットワークに接続する

このセクションでは、“One-Click”機能を使用してネットワーク接続を行う方法について説明します。この機能を使用すると、PC とプロジェクター間のネットワーク接続が簡単に行えるため、IP アドレスや SSID などの複雑な設定が不要になります。
* この機能は、複数の PC や複数のプロジェクターを接続しているときには使用できません。
* “One-Click”機能を使用するには、OS が Windows 2000 Professional Service Pack 4 または Windows XP で管理者権限で PC にログインしていることが必要です。
* この機能は一部の LAN ドライバでは使用できない場合があります。“One-Click”通信機能で接続できない場合は、手動で接続の設定をしてください。（📖10、16、および PC と無線機器の取扱説明書を参照してください。）

[有線 LAN 接続] の場合

1) プロジェクターのネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスクなど）を変更している場合、プロジェクターのネットワーク設定を工場出荷時のものに戻すことが必要になります。
①リモコンの MENU ボタン、またはプロジェクターの各矢印ボタン▲ / ◀ / ▶ / ▼を押し、メニューを表示します。簡単メニューが表示されたときは、詳細メニューに切り替えてください。
②矢印ボタン▲ / ▼を押して“MIU”メニューを選択します。

2.2 “One-Click”機能で自動的にネットワークに接続する（つづき）

③リモコンの RESET ボタンを押し、“初期化”メニューを表示します。

④▲ボタンを押してネットワーク設定をリセットします。

お知らせ
● SSID と WEP KEY は工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。
●これらの項目は、Web ブラウザで再設定することができます（📖19）。

2) LAN ケーブルで PC とプロジェクターを接続し、通信の準備を行います。
* 既存のネットワークに接続する際は、社内のネットワーク管理者にお問い合わせください。
3) “MIU LiveViewer”を起動し、図 2.2.a のウィンドウを表示します（📖44 “MIU LiveViewer”の使用方法）。

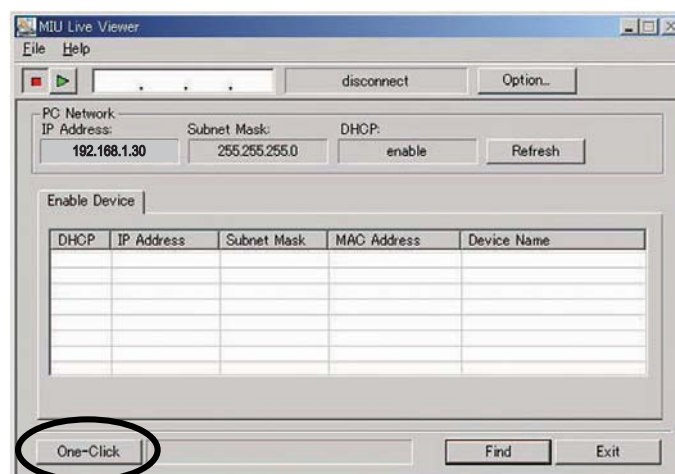



図 2.2.a “MIU LiveViewer”メインウィンドウ

2.2 “One-Click”機能で自動的にネットワークに接続する（つづき）

4) 図 2.2.a の“One-Click”ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプロジェクターが検索されます。次に、キャプチャスタートボタンをクリックしてリアルタイム表示を開始します。

[無線 LAN 接続]

1) プロジェクターのネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスクなど）を変更すると、プロジェクターのネットワーク設定を工場出荷時のものに戻す必要があります（📖9）。
2) PC に 802.11b/g 無線 LAN デバイスが内蔵されている場合は、LAN を有効にして、他のネットワーク接続をすべて無効にしてください。PC に無線 LAN デバイスが内蔵されていない場合は、802.11b/g 無線 LAN デバイスを PC に接続してデバイスドライバをインストールしてください。（詳細については、無線 LAN デバイスの取扱説明書を参照して下さい。）
3) “MIU LiveViewer”を起動し、図 2.2.a のウィンドウを表示します。
4) 図 2.2.a の“One-Click”ボタンをクリックすると、プロジェクターが検出されます。次に、キャプチャ開始ボタン をクリックすると液晶プロジェクターへのリアルタイム表示を開始します。

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合

IP アドレスや SSID を工場出荷時のデフォルト設定以外のものに設定するときには、ネットワーク接続を手動で設定しなければなりません。
この項では、ネットワーク接続を手動で設定する方法について説明します。

2.3.1 機器の接続について

まず、プロジェクターと PC を有線 LAN 接続で接続し、PC 設定と接続状態をチェックしてください。次の項では、PC の設定について説明します。
LAN ケーブルを用いてプロジェクターを接続し、PC との通信の準備を行います。
* 既存のネットワークに接続する際は、社内のネットワーク管理者にお問い合わせください。
最後に、プロジェクターの電源を入れます。これで、機器の接続は終わりです。

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合（つづき）

2.3.2 ネットワーク設定方法

ここでは、Windows XP と Internet Explorer で行うネットワーク接続の設定方法について説明します。
1) 管理者権限のあるユーザーで Windows XP にログオンします。 (*)
2) “スタート”メニューから“コントロールパネル”を開きます。
3) “コントロールパネル”の“ネットワークとインターネット接続”を開きます（図 2.3.2.a)。
* 管理者権限のあるユーザーとは、PC すべての機能にアクセスできるユーザー権限のことをいいます。

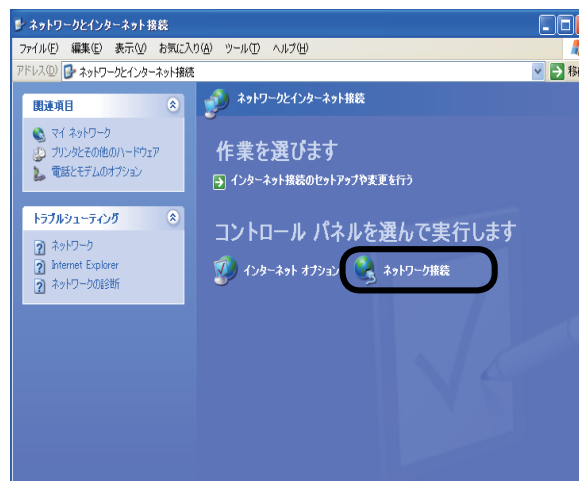



図 2.3.2.a “ネットワークとインターネット接続”ウィンドウ

4) “ネットワーク接続”のウィンドウを開きます（図 2.3.2.b)。

図 2.3.2.b “ネットワーク接続”ウィンドウ

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合（つづき）

5) 使用可能なネットワーク装置が複数存在するときには、使用したい装置のみを“有効”にし、残りのデバイスは“無効”にしてください。（この場合、“ローカルエリア接続”を選択します。）
6) “ローカルエリア接続のプロパティ”ウィンドウを開きます（図 2.3.2.c）。

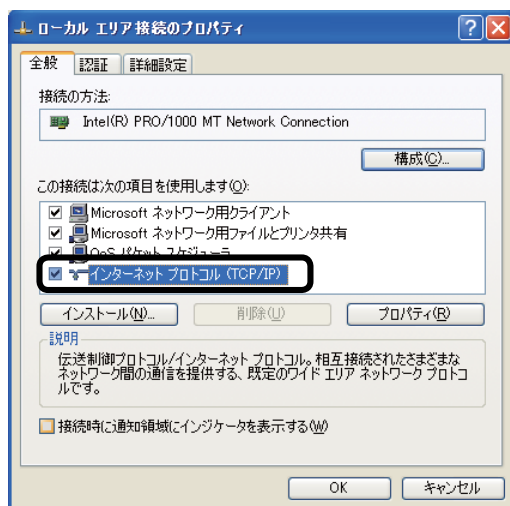



図 2.3.2.c　“ローカルエリア接続のプロパティ”ウィンドウ

7) 使用プロトコルとして“TCP/IP”を設定し、“インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ”ウィンドウを開きます。

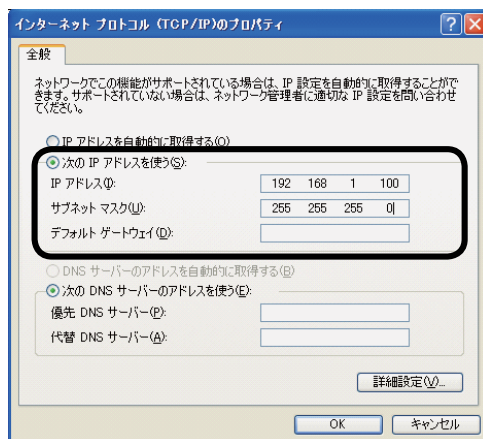



図 2.3.2.d　“インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ”ウィンドウ

8) PC の“IP アドレス”、“サブネットマスク”、“デフォルトゲートウェイ”を設定します。

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合（つづき）

[IP アドレスについて]

PC に設定する IP アドレスのうちネットワークアドレスを示す部分はプロジェクターと同じでなければなりませんが、PC の IP アドレス全体が他のネットワーク装置と全く同じになるようには設定しないでください。

たとえば、プロジェクターの初期設定は次のようになっています。

IP address: 192.168.1.10
Subnet mask: 255.255.255.0

この場合、PC の IP アドレスは次のように指定します。

IP address: 192.168.1.xxx（xxx の部分に 10 進数を入力）
Subnet mask: 255.255.255.0

他のネットワークデバイスと重複しない 1 ～ 254 の数値を“xxx”部分に指定します。この場合、プロジェクターの IP アドレスが“192.168.1.10”であるため、PC の IP アドレスの xxx 部分には 1 ～ 254 の数値を指定できますが、10 は指定できません（プロジェクターで使用しているので）。

プロジェクターの IP アドレスは、プロジェクターのメニュー（取扱説明書を参照ください）あるいは Web ブラウザを使用して変更できます（📖19）。

ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合は、プロジェクターの IP アドレスを自動的に割り当てることができます。

プロジェクターと PC が同じネットワーク上にある場合（ネットワークアドレスが同じ場合）は、デフォルトゲートウェイに何も設定しない場合もあります。

* DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）は、DHCP サーバーから機器に対して、IP アドレスなどの必要なネットワーク設定を行います。DHCP 機能を搭載したサーバーを DHCP サーバーといいます。
* プロジェクターと PC がそれぞれ異なるネットワーク上にある場合は、デフォルトゲートウェイを設定する必要があります。詳細については、社内のネットワーク管理者にお問い合わせください。

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合（つづき）

2.3.3 “インターネットオプション”の設定

1）“ネットワークとインターネット接続”ウィンドウの“インターネットオプション”（図 2.3.3.a）をクリックし、“インターネットのプロパティ”ウィンドウ（図 2.3.3.b）を開きます。

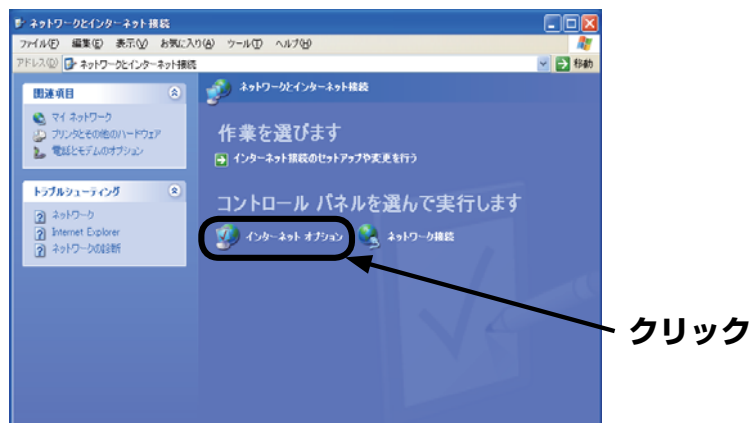



図 2.3.3.a “ネットワークとインターネット接続”ウィンドウ

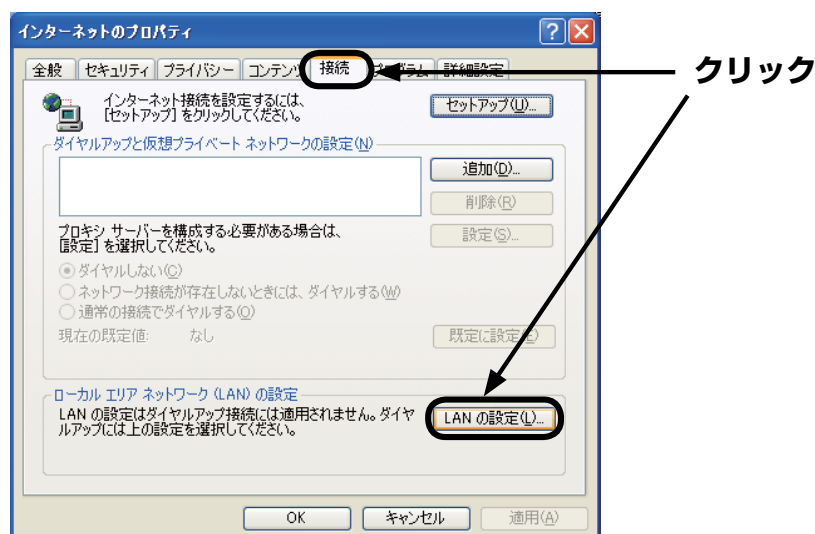



図 2.3.3.b “インターネットのプロパティ”ウィンドウ

2）“接続”タブをクリックした後、“LAN の設定”ボタンをクリックして“ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定”を開きます（図 2.3.3.c）。

2.3 手動で設定してネットワークに接続する – 有線 LAN の場合（つづき）

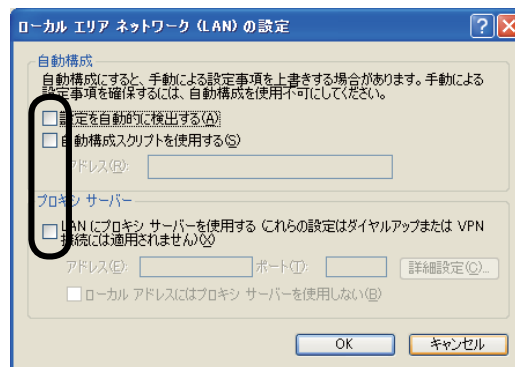



図 2.3.3.c “ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定”ウィンドウ

3) “ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定”ウィンドウで、すべてのボックスのチェックを外します（図 2.3.3.c)。

2.3.4 接続の確認方法について

1) PC 上で Web ブラウザを起動して以下の URL を入力し、PC とプロジェクターが正しく接続されているかどうかをチェックします。
URL: http://(プロジェクターの IP アドレス) /
たとえば、プロジェクターの IP アドレスが 192.168.1.10 であれば、URL は次のようになります。
URL: http://192.168.1.10/
2) 図 2.3.4 の画面が表示されたなら、正常に接続されたことになります。接続できない場合は、ケーブルの接続と設定が正しく行われていることをチェックしてください。

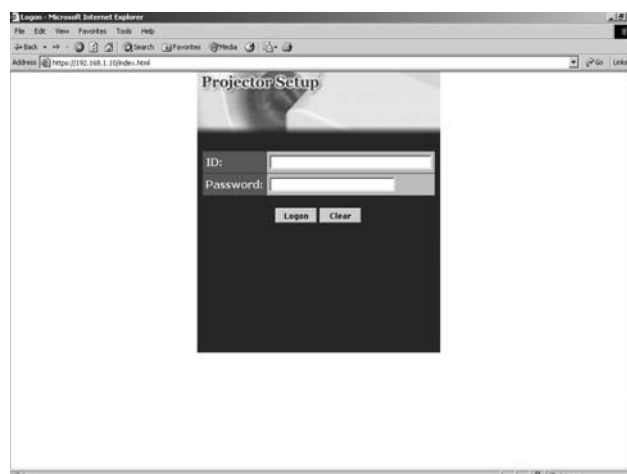



図 2.3.4 ［ログオンメニュー］

2.4 手動で設定してネットワークに接続する – 無線 LAN の場合

ワイヤレスネットワークカードを挿入することで、プロジェクターと PC 間の通信が [AD-HOC] モードと [INFRASTRUCTURE] モードの両方で可能になります。
ここでは無線 LAN を手動で設定してネットワークに接続する方法を説明します。

2.4.1 無線 LAN への接続準備をする

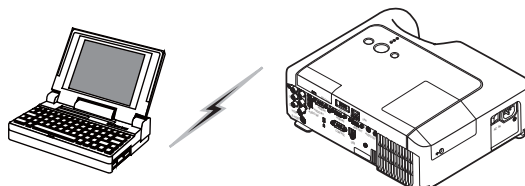



図 2.4.1.a アクセスポイントを使用しない通信（AD-HOC）

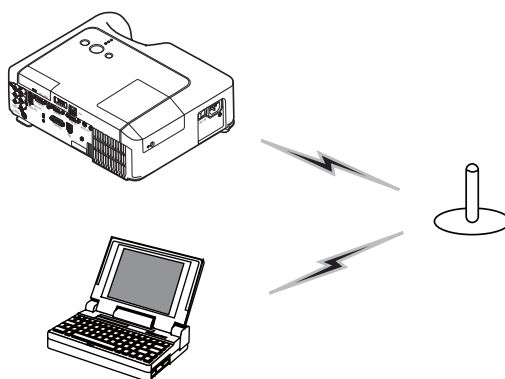



図 2.4.1.b アクセスポイントを使用した通信（INFRASTRUCTURE）

* [AD-HOC] モードは、通信用のアクセスポイントを必要としない無線 LAN の通信方式です。
* [INFRASTRUCTURE] モードは、通信用のアクセスポイントを必要とする無線 LAN の通信方式です。このモードのほうが多数の機器を接続する場合に便利です。

既存のネットワークに接続する際は、社内のネットワーク管理者にお問い合わせください。

最初に、ワイヤレスネットワークカードを SD カードスロットに差し込みます（📖 取扱説明書 SD カード /USB メモリを挿入する）。
次に、無線通信に使用する PC を準備します。
PC が 802.11b/g 無線 LAN 装置を内蔵されている場合は、無線 LAN を有効にして、他のネットワーク接続をすべて無効にしてください。PC に無線 LAN 装置が内蔵されていない場合は、802.11b/g 無線 LAN 装置を PC に接続してデバイスドライバをインストールしてください。（詳細については、無線 LAN 装置の取扱説明書を参照してください。）

2.4 手動で設定してネットワークに接続する – 無線 LAN の場合（つづき）

2.4.2 無線 LAN の接続設定をする

標準的な Windows XP での無線 LAN の使用方法について
このプロジェクターでは無線 LAN は初期設定で次のようになっています。

接続制御　　　：AD-HOC
SSID　　　　 ：wireless
チャンネル　　：1ch
データの暗号化：無効
通信速度　　　：オート
IP アドレス　　：192.168.1.10

* これらの設定は、Web ブラウザからの設定あるいは液晶プロジェクター本体のメニューを使用して変更できます（📖19 及び取扱説明書）。

1）“ネットワーク接続”を開きます（図 2.4.2.a）。

図 2.4.2.a　“ネットワーク接続”

2）“ワイヤレスネットワーク接続”を“有効”に設定し、他のネットワークデバイスはすべて“無効”に設定します。
3）“ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ”ウィンドウを開きます（図 2.4.2.b）。

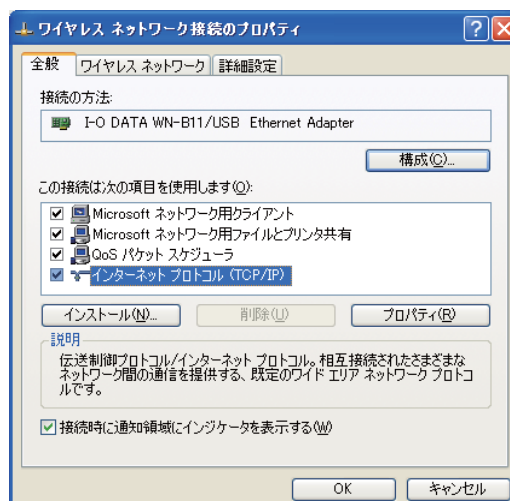



図 2.4.2.b　“ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ”ウィンドウ (1)

2.4 手動で設定してネットワークに接続する – 無線 LAN の場合（つづき）

4) 使用するプロトコルとして“TCP/IP”を設定し、“インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ”ウィンドウを開きます。有線 LAN 接続の場合と同様に、IP アドレスや他の設定を行います（📖12）。
5) “ワイヤレスネットワーク”タブをクリックします（図 2.4.2.c）。

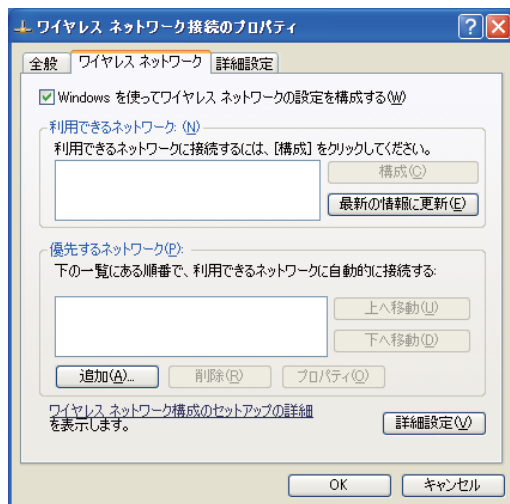



図 2.4.2.c　“ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ”ウィンドウ (2)

6) “ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ”ウィンドウの“Windows でワイヤレスネットワークの設定を構成する”にチェックを付けます。
7) “ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ”ウィンドウ（図 2.4.2.c）の“優先ネットワーク”の下にある“追加”ボタンをクリックし、“ワイヤレスネットワークのプロパティ”ウィンドウ（図 2.4.2.d）を開きます。

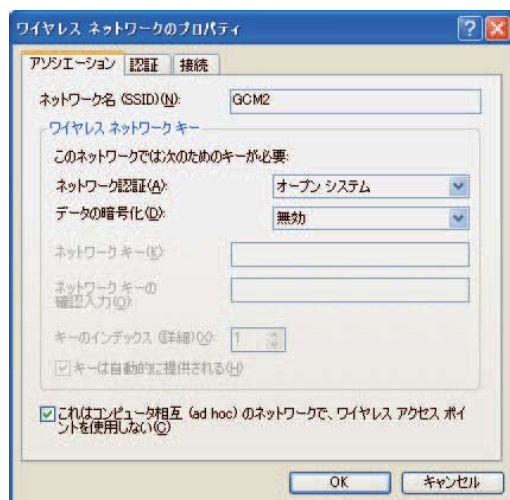



図 2.4.2.d　“ワイヤレスネットワークのプロパティ”ウィンドウ

2.4 手動で設定してネットワークに接続する – 無線 LAN の場合（つづき）

8) 以下の各項目を設定します。
ネットワーク名 (SSID): wireless
データの暗号化 : 無効（工場出荷設定は“無効”になっています）
* これは工場出荷時と同じプロジェクター設定に関する説明です。アクセスポイントやデータ暗号化を使用する場合は、設定方法が違います。（詳細については、PC と無線 LAN デバイスの取扱説明書を参照してください。）
* 既存のネットワークに接続する際は、社内のネットワーク管理者にお問い合わせください。

2.5 Web ブラウザを使用してプロジェクターの設定と制御をする

プロジェクターの設定または制御は、同じネットワークに接続されている PC 上の Web ブラウザからネットワーク経由で行うことができます。

お知らせ
● Internet Explorer 5.5 あるいはそれ以降のバージョンが必要です。
● Web ブラウザの設定で Java スクリプトが無効になっている場合は、Java スクリプトを有効にしてプロジェクターの Web ページを正しく出来るようにしてください。Java スクリプトを有効にする方法については、Web ブラウザのヘルプファイルを参照してください。
●ケーブルがぬけるなどで、ネットワークから約 50 秒間つながっていなかった場合、システムが自動的にログオフします。Web ブラウザでの操作を続ける場合は、ログオンしなおしてください。
●ログオン後に、メインの操作ウィンドウの後ろに小さな空白のウィンドウが表示されます。この小さなウィンドウは閉じないようにしてください。このウィンドウを閉じると、たとえ操作中であってもしばらくするとシステムが自動的にログオフします。
この小さな空白ウィンドウは、メインの操作ウィンドウを閉じたときに自動的に閉じます。
●この空白ウィンドウはポップアップウィンドウとみなされ、Windows XP Service Pack 2 や他のセキュリティソフトウェアを使用しているときに表示されない場合があります。
Service Pack 2 を使用して、このウィンドウの表示がブロックされると、次のメッセージが表示されます。“ポップアップがブロックされました。このポップアップまたは追加オプションを参照するには、ここをクリックしてください ...”
このウィンドウを開く前に、“ポップアップを一時的に許可”または“このサイトのポップアップを常に許可”を選択してください。
● Web ブラウザの更新プログラムは、すべて通用しておいてください。 Windows XP Service Pack 2 以前の Microsoft Windows で Internet Explorer を使用している場合は、セキュリティ更新プログラム Q832894（MS04-004）を必ずインストールするようにしてください。インストールしておかないと､Web ブラウザの画面が正常に表示されないことがあります。
また、古いバージョンの Internet Explorer を使用すると、操作開始から 50 秒後にブラウザがログアウトする場合があります。

2.5 Web ブラウザを使用してプロジェクターの設定と制御をする（つづき）

Web ブラウザからプロジェクターを設定または制御する場合には、ID とパスワードが必要になります。ID には管理者 ID とユーザー ID の 2 種類あります。下表はユーザー ID と管理者 ID の比較一覧です。

項　目	説　明	管理者 ID	ユーザー ID
Network Information	プロジェクターの現在のネットワーク設定を表示します。	○	○
Network Settings	ネットワーク設定の表示と設定を行います。	○	×
Port Settings	通信ポート設定の表示と設定を行います。	○	×
Mail Settings	電子メールのアドレス設定の表示と変更を行います。	○	×
Alert Settings	エラー / 警告通知の設定の表示と変更を行います。	○	×
Schedule Settings	スケジュール設定の表示と変更を行います。	○	×
Date/Time Settings	日時設定の表示と変更を行います。	○	×
Security Settings	パスワードや他のセキュリティ設定の表示と変更を行います。	○	×
Projector Control	プロジェクターを制御します。	○	○
Remote Control	リモコンのイメージでプロジェクターを制御します。	○	○
Projector Status	現在のプロジェクターの状態表示と変更を行います。	○	○
Network Restart	プロジェクターのネットワーク接続を再起動します。	○	×

管理者 ID、ユーザー ID、およびパスワードの工場出荷時のデフォルト設定は下記の通りです。

ID の種類	ID	パスワード
管理者 ID	Administrator	（デフォルトでは設定されていません）
ユーザー ID	User	（デフォルトでは設定されていません）

2.5 Web ブラウザを使用してプロジェクターの設定と制御をする（つづき）

Web ブラウザを使用してプロジェクターの設定と制御を行う場合、下記の例を参照してください。
例：プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

1) Web ブラウザのアドレスバーに、
[http://192.168.1.10] と入力すると、
図 2.5.a のような画面が表示されます。

2) ID とパスワードを入力して、**[Logon]** を
クリックします。

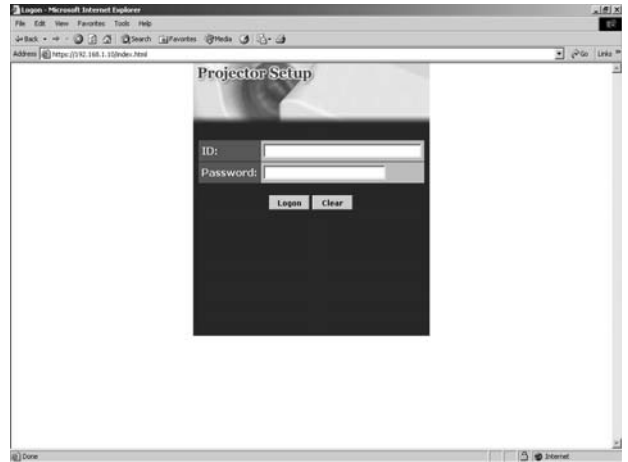



図 2.5.a [Logon Menu]

正常にログオンされると、図 2.5.b または図 2.5.c の画面が表示されます

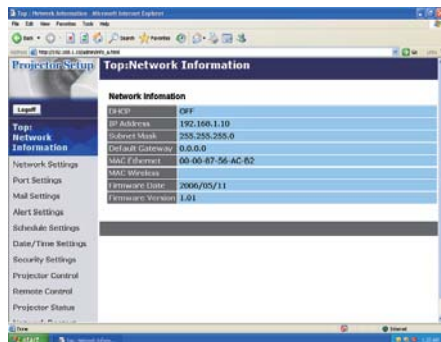



図 2.5.b 管理者 ID を使用したログオン

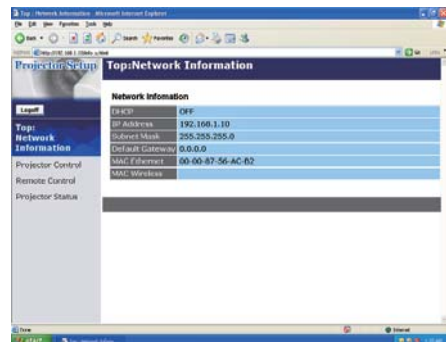
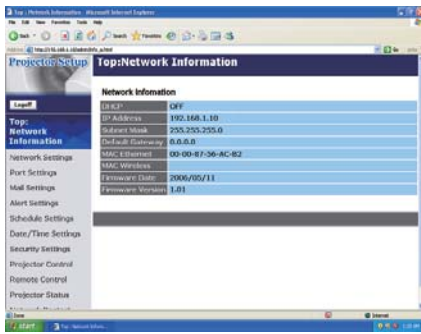



図 2.5.c ユーザー ID を使用したログオン

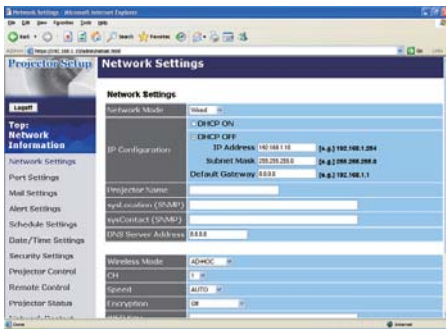
3) 画面（図 2.5.b または図 2.5.c）左側のメインメニューから操作 / 設定したい項目をクリックします。

Network Information（ネットワークの設定情報）

下記に示す各表の説明を参照してください。

お知らせ ●このマニュアルに表示されている画面の画像は、すべてネットワーク管理者 ID を用いてログオンしたときの画面です。
ユーザー ID でログオンしたときには、管理者の専用機能は表示されません。

プロジェクターの現在のネットワークの設定を表示します。

項　目	説　明
DHCP	DHCP 設定を表示します。
IP Address	現在の IP アドレスを表示します。
Subnet Mask	サブネットマスクを表示します。
Default Gateway	デフォルトゲートウェイを表示します。
MAC Ethernet	有線 LAN の MAC アドレスを表示します。
MAC Wireless	無線 LAN の MAC アドレスを表示します。有線 LAN を使用中およびワイヤレスネットワークカードが挿入されていない場合はこの項目は表示されません。
Firmware Date	ネットワークファームウェアのタイムスタンプを表示します。この情報は、管理者 ID でログオンしたときにのみ表示されます。
Firmware Version	ネットワークファームウェアのバージョンを表示します。この情報は、管理者 ID でログオンしたときにのみ表示されます。

Network Settings（ネットワーク設定）

ネットワーク設定の表示と構成を行います。

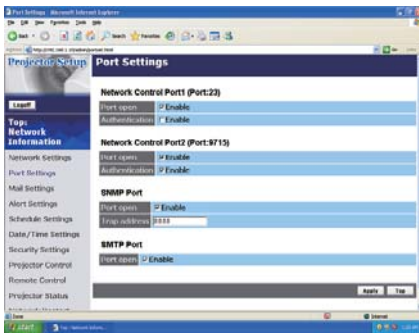
項　目	説　明
NETWORK MODE	“有線 LAN” または “ワイヤレス” のいずれかのネットワークモードを選択します。
IP Configuration	ネットワークの設定を行います。
DHCP ON	DHCP を有効にします。
DHCP OFF	DHCP を無効にします。
IP Address	DHCP を無効にしたときの IP アドレスを設定します。
Subnet Mask	DHCP を無効にしたときのサブネットマスクを設定します。
Default Gateway	DHCP を無効にしたときのデフォルトゲートウェイを設定します。
Projector Name	プロジェクター名を設定します。
sysLocation (SNMP)	SNMP 使用時に参照する設定場所情報を設定します。
sysContact (SNMP)	SNMP 使用時に参照する連絡先情報を設定します。
DNS Server Address	DNS サーバーのアドレスを設定します。

Network Settings（ネットワーク設定）（つづき）

項　目		説　明
Wireless LAN		無線 LAN の設定を行います。
	Mode	[AD-HOC] モード、または [INFRASTRUCTURE] モードを選択する場合に使用します。
	CH (Communication channel)	チャンネル（1 ～ 11）を選択する場合に使用します。 ⚠注意 ●使用可能なチャンネルは、ワイヤレスネットワークカードを使用する国や地域に応じて制限されます。一部の国 / 地域では、その国や地域で定める規格に適合しているワイヤレスネットワークカードを使用することが必要になる場合があります。
	Speed (Communication speed)	通信速度を変更する場合に使用します。
	Encryption	データの暗号化方式を変更する場合に使用します。
	WEP Key	暗号方式に WEP を使用する場合に入力します。“64 ビット”WEP には 10 文字のキー、“128 ビット”WEP には 26 文字のキーを入力します。キーには“0”～“9”の数字と“a”～“f”のアルファベット以外は使用できません。
	WPA Passphrase	WPA パスフレーズ（8 ～ 63 文字）を入力する場合に使用します。半角英数字と以下の記号以外は使用できません。 !"#$%&'()*+,-./[¥]^_`{|}~
	SSID	SSID を 32 文字までの長さで設定します。半角英数字と以下の記号以外は使用できません。 !"#$%&'()*+,-./[¥]^_`{|}~

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

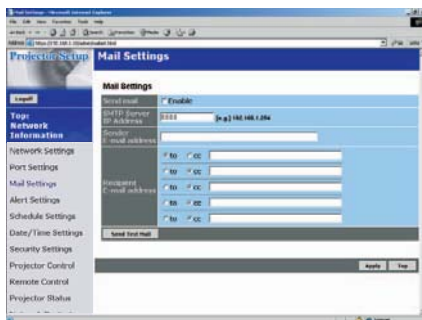
お知らせ ●新しく設定した値は、ネットワーク接続を再起動した後に有効になります。設定を変更したときには、ネットワーク接続を再起動する必要があります。ネットワーク接続を再起動するには、Web ブラウザで左側に表示されているメインメニューで [Network Restart] をクリックします。
●プロジェクターを既存のネットワークに接続する場合は、ネットワークのアドレスを設定する前にネットワーク管理者にご相談ください。

Port Settings（ポート設定）

通信ポート設定の表示と変更を行います。

項　目		説　明
Network Control Port1（Port:23）		コマンド制御ポート１（Port:23）を設定します。
	Port open	ポート 23 を使用するには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Authentication	このポートでパスワード認証をする場合は、[Enable] チェックボックスをオンにします。
Network Control Port2（Port:9715）		コマンド制御ポート２（Port:9715）を設定します。
	Port open	ポート 9715 を使用するには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Authentication	このポートでパスワード認証をする場合は、[Enable] チェックボックスをオンにします。
SNMP Port		SNMP ポートを設定します。
	Port open	SNMP を使用するには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Trap address	SNMP Trap の宛先の IP アドレスを設定します。
SMTP Port		SMTP ポートを設定します。
	Port open	電子メール機能を使用するには、[Enable] チェックボックスをオンにします。

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

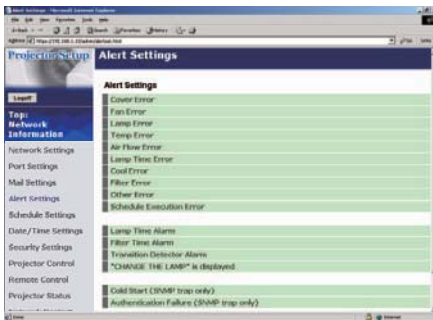
お知らせ ●新しく設定した値は、ネットワーク接続を再起動した後に有効になります。設定を変更したときには、ネットワーク接続を再起動する必要があります。ネットワーク接続を再起動するには、Web ブラウザで左側に表示されているメインメニューで [Network Restart] をクリックします。

Mail Settings（メール設定）

電子メールのアドレス設定の表示と構成を行います。

項　目	説　明
Send Mail	電子メール機能を使用するには、[Enable] チェックボックスをオンにします。電子メールの送信条件を [Alert Settings] フィールドで設定します。
SMTP Server IP Address	メールサーバーの IP アドレスを設定します。
Sender E-mail address	送信者の電子メールアドレスを設定します。 送信者の電子メールアドレスの長さは、半角で 255 文字まで入ります。
Recipient E-mail address	受信者（最大 5 名）の電子メールアドレスを設定します。各アドレスの [TO] または [CC] を指定することもできます。受信者の電子メールアドレスは、半角で 255 文字まで入ります。

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

お知らせ ●メールの設定が正しく機能するかどうかは、[Send Test Mail] ボタンをクリックして確認できます。
●プロジェクターを既存のネットワークに接続する場合は、ネットワークのアドレスを設定する前にネットワーク管理者に相談してください。

Alert Settings（自動通知設定）

エラー / 警告 通知の表示と構成を行います。

項　目		説　明
Cover Error		ランプドアのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Fan Error		ファンのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。

Alert Settings（自動通知設定）（つづき）

項　目		説　明
Lamp Error		ランプのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Temp Error		温度のエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Air Flow Error		フィルターの目詰まりのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。

Alert Settings（自動通知設定）（つづき）

項　目		説　明
Lamp Time Error		ランプタイマーのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Cool Error		低温のエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Filter Error		フィルターのエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。

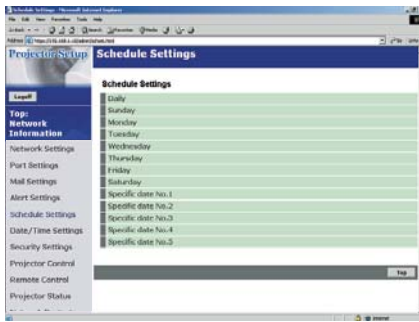
Alert Settings（自動通知設定）（つづき）

項　目		説　明
Other Error		その他のエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Schedule Execution Error		スケジュールの実行のエラーに関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Lamp Time Alarm		ランプ時間に関する通知を設定します。
	Alarm Time	警告を出す時間を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。

Alert Settings（自動通知設定）（つづき）

項　目		説　明
Filter Time Alarm		フィルタータイマーに関する通知を設定します。
	Alarm Time	警告を出す時間を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Transition Detector Alarm		状態監視に関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
“CHANGE THE LAMP” is displayed		“ランプを交換して下さい。”と表示されたときの通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Send Mail	この項目の電子メール通知を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Mail Subject	送信する電子メールの件名を設定します。 件名の長さは、半角で 255 文字まで設定できます。
	Mail Text	送信する電子メールの本文を設定します。 メール本文の長さは、半角で 1024 文字まで設定できます。
Cold Start		Cold Start に関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
Authentication Failure		認証失敗に関する通知を設定します。
	SNMP Trap	この項目の SNMP トラップを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

Schedule Settings（スケジュール設定）

スケジュール設定の表示と構成を行います。

項　目		説　明
Daily		毎日実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	毎日実行されるスケジューリングを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている毎日実行されるスケジュールを表示します。
Sunday		日曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	日曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている日曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Monday		月曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	月曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている月曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Tuesday		火曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	火曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている火曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Wednesday		水曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	水曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている水曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Thursday		木曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	木曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている木曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Friday		金曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	金曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている金曜日に実行されるスケジュールを表示します。
Saturday		土曜日に実行されるスケジュールを設定します。
	Schedule	土曜日に設定されたスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Schedule List	現在設定されている土曜日に実行されるスケジュールを表示します。

Schedule Settings（スケジュール設定）（つづき）

項　目		説　明
Specific date No1		特定日（No.1）のスケジュールを設定します。
	Schedule	特定日(No.1)のスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Month/Day	月日を設定します。
	Schedule List	現在設定されている特定日（No.1）のスケジュールの内容を表示します。
Specific date No.2		特定日（No.2）のスケジュールを設定します。
	Schedule	特定日(No.2)のスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Month/Day	月日を設定します。
	Schedule List	現在設定されている特定日（No.2）のスケジュールの内容を表示します。
Specific date No.3		特定日（No.3）のスケジュールを設定します。
	Schedule	特定日(No.3)のスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Month/Day	月日を設定します。
	Schedule List	現在設定されている特定日（No.3）のスケジュールの内容を表示します。
Specific date No.4		特定日（No.4）のスケジュールを設定します。
	Schedule	特定日(No.4)のスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Month/Day	月日を設定します。
	Schedule List	現在設定されている特定日（No.4）のスケジュールの内容を表示します。
Specific date No.5		特定日（No.5）のスケジュールを設定します。
	Schedule	特定日(No.5)のスケジュールを有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
	Month/Day	月日を設定します。
	Schedule List	現在設定されている特定日（No.5）のスケジュールの内容を表示します。

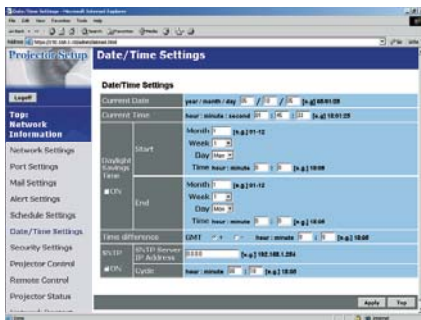
設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

Schedule Settings（スケジュール設定）（つづき）

さらに機能やイベントを追加するには、[Add] ボタンをクリックして以下の項目を設定します。

項　目		説　明
Time		コマンドを実行する時間を設定します。
Command		実行するコマンドを設定します。
	Power Parameter	電源制御を設定します。
	Input Source Parameter	入力切替を設定します。
	Display Image Parameter	転送した画像データを表示するためのパラメータを設定します。

スケジュールリストに新しいコマンドを追加するには、[Register] ボタンをクリックします。
スケジュールリストからコマンドを削除するには、[Delete] ボタンをクリックします。

Date/Time Settings（日付 / 時刻設定）

日時設定の表示と構成を行います。

項　目	説　明
Current Date	年 / 月 / 日の形式で現在日を設定します。
Current Time	時 : 分 : 秒の形式で現在時刻を設定します。

Date/Time Settings（日付 / 時刻設定）（つづき）

項　目	説　明
Daylight Savings Time	夏時間を有効にして以下の項目を設定するには、[ON] チェックボックスをクリックします。
Start	夏時間が開始する日時を設定します。
Month	夏時間が開始する月（1 ～ 12）を設定します。
Week	夏時間が開始する曜日がその月で何番目か（First、2、3、4、Last）を設定します。
Day	夏時間が開始する週単位の曜日（Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat）を設定します。
Hour	夏時間が開始する“時”（0 ～ 23）を設定します。
Minute	夏時間が開始する“分”（0 ～ 59）を設定します。
End	夏時間が終了する日時を設定します。
Month	夏時間が終了する月（1 ～ 12）を設定します。
Week	夏時間が終了する曜日がその月で何番目か（First、2、3、4、Last）を設定します。
Day	夏時間が終了する週単位の曜日（Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat）を設定します。
Hour	夏時間が終了する“時”（0 ～ 23）を設定します。
Minute	夏時間が終了する“分”（0 ～ 59）を設定します。
Time difference	グリニッジ標準時に対する時差（時 : 分）を設定します。 PC に設定されている同じ時差を設定してください。不明な場合は、社内のネットワーク管理者に問い合わせてください。
SNTP	SNTP サーバーを使って日時を自動的に設定する場合は、チェックボックスをオンにします。
SNTP Server IP Address	SNTP サーバーの IP アドレスを設定します。
Cycle	SNTP サーバーから Date および Time 情報を取り出す間隔（時 : 分）を設定します。

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

お知らせ ●新しく設定した値は、ネットワーク接続を再起動した後に有効になります。設定を変更したときには、ネットワーク接続を再起動する必要があります。ネットワーク接続を再起動するには、Web ブラウザで左側に表示されているメインメニューで [Network Restart] をクリックします。

●プロジェクターを既存のネットワークに接続する場合は、ネットワークのアドレスを設定する前にネットワーク管理者にご相談ください。

● SNTP 機能を設定する前に、時差を設定してください。

●プロジェクターの SNTP 機能が有効のときは Time Server から日付 / 時間の情報を取り出し、時間の設定を上書きします。

●内蔵時計の時間はずれてくる場合があります。正確な時間を維持するためには、SNTP を使用することをお勧めいたします。

Security Settings（セキュリティ設定）

パスワードや他のセキュリティ設定の表示と構成を行います。

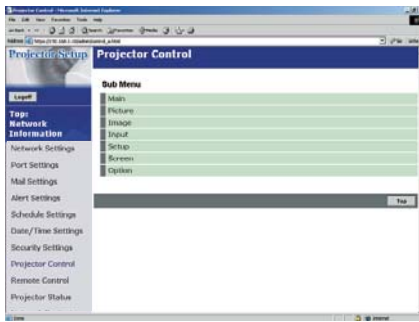
項　目		説　明
Administrator authority		管理者 ID とパスワードを設定します。
	Administrator ID	管理者 ID を設定します。 半角英数字で 32 文字まで設定できます。
	Administrator Password	管理者パスワードを設定します。 半角英数字で 255 文字まで設定できます。
	Re-enter Administrator Password	確認のために、上記のパスワードを再入力してください。
User authority		ユーザー ID とパスワードを設定します。
	User ID	ユーザー ID を設定します。 半角英数字で 32 文字まで設定できます。
	User Password	ユーザーパスワードを設定します。 半角英数字で 255 文字まで設定できます。
	Re-enter User Password	確認のために、上記のパスワードを再入力してください。

Security Settings（セキュリティ設定）（つづき）

項　目		説　明
Network Control		コマンド制御の認証パスワードを設定します。
	Authentication Password	認証パスワードを設定します。 半角英数字で 32 文字まで設定できます。
	Re-enter Authentication Password	確認のために、上記のパスワードを再入力してください。
SNMP		SNMP のコミュニティ名を設定します（SNMP 使用時）。 半角英数字で 64 文字まで設定できます。
	Community Name	コンフィギュレーションのコミュニティ名を設定します。 半角英数字で 64 文字まで設定できます。

設定が終わったら [Apply] ボタンをクリックして保存してください。

お知らせ ●新しく設定した値は、ネットワーク接続を再起動した後に有効になります。設定を変更したときには、ネットワーク接続を再起動する必要があります。ネットワーク接続を再起動するには、Web ブラウザで左側に表示されているメインメニューで [Network Restart] をクリックします。

Projector Control（プロジェクター制御）

下表に示す各項目は、[Projector Control] メニューを用いて実行することができます。PC の上矢印キーと下矢印キーを用いて任意の項目を選択します。
ほとんどの項目にはサブメニューがあります。
詳細については下表を参照してください。

プロジェクターを制御します。

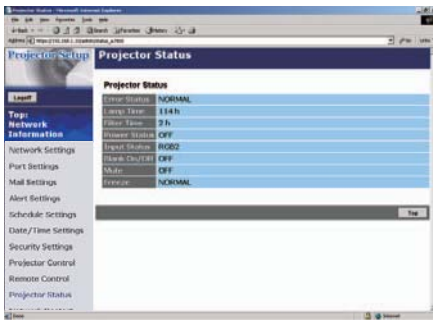
項　目		説　明
Main		
	Power	電源をオン / オフします。
	Input Source	入力切替を行います。
	Picture Mode	映像モード設定を選択します。
	Blank On/Off	ブランクをオン / オフします。
	Mute	音声を消す / 出す設定をします。
	Freeze	映像を静止させる / 静止させない設定を行います。
	Magnify	画面の拡大を行います。
Picture		
	Brightness	明るさを調節します。
	Contrast	コントラストを調節します。
	Gamma	ガンマ設定を選択します。
	Color Temp	色温度設定を選択します。
	Color	色の濃さを調節します。
	Tint	色あいを調節します。
	Sharpness	画質を調節します。
	MyMemory Recall	マイメモリー設定をロードします。
	MyMemory Save	マイメモリー設定をセーブします。

Projector Control（プロジェクター制御）（つづき）

項　目		説　明
Image		
	Aspect	アスペクトを選択します。
	Over Scan	オーバースキャンを選択します。
	V Position	垂直位置を調節します。
	H Position	水平位置を調節します。
	H Phase	クロック位相を調節します。
	H Size	水平サイズを調節します。
	Auto Adjust	オートアジャストを実行します。
Input		
	Progressive	プログレッシブモードを選択します。
	Video NR	映像ノイズの低減レベルを選択します。
	Color Space	色空間モードを選択します。
	Component	COMPONENT VIDEO 端子の機器を選択します。
	C-Video Format	ビデオフォーマットを選択します。
	S-Video Format	S- ビデオフォーマットを選択します。
	Frame Lock	フレームロックを有効 / 無効にします。
	RGB in-1	RGB1 の SYNC ON G モードを選択します。
	RGB in-2	RGB2 の SYNC ON G モードを選択します。
Setup		
	Auto Keystone Execute	オートキーストンを実行します。
	Keystone	キーストンを調節します。
	Whisper	ファン速度（標準、または静音）を選択します。
	Mirror	反転モードを選択します。
	Volume	音量を調節します。
	Audio-RGB1	AUDIO-RGB1 が連動する映像入力端子を選択します。
	Audio-RGB2	AUDIO-RGB 2 が連動する映像入力端子を選択します。
	Audio-Video	AUDIO-VIDEO が連動する映像入力端子を選択します。
	Audio-S-Video	AUDIO-S-VIDEO が連動する映像入力端子を選択します。
	Audio-Component	AUDIO-COMPONENT が連動する映像入力端子を選択します。
	Audio-MIU	AUDIO-MIU が連動する映像入力端子を選択します。

Projector Control（プロジェクター制御）（つづき）

項　目		説　明
Screen		
	Language	メニュー表記言語を選択します。
	Menu Position V	メニューの垂直位置を調整します。
	Menu Position H	メニューの水平位置を調整します。
	Blank	ブランク画面を選択します。
	Startup	初期画面を選択します。
	MyScreen Lock	マイスクリーンロックをオン / オフします。
	Message	メッセージモードを選択します。
Option		
	Auto Search	入力信号の自動検索の有効化（on）/ 無効化（off）をします。
	Auto Keystone	オートキーストン機能を有効化（on）/ 無効化（off）します。
	Auto on	オートオン機能を有効化（on）/ 無効化（off）します。
	Auto off	自動電源オフの設定をします。
	My Button-1	リモコンのマイ ボタン 1 の機能を選択します。
	My Button-2	リモコンのマイ ボタン 2 の機能を選択します。
	Auto Adjust	オートアジャストを有効化（on）/ 無効化（off）にします。
	Remote Freq. Normal	リモコン周波数の標準を有効 / 無効にします。
	Remote Freq. High	リモコン周波数の高を有効 / 無効にします。

Projector Status（プロジェクターステータス）

現在のプロジェクターステータスの表示と構成を行います。

項　目	説　明
Error Status	現在の起きているエラーを表示します。
Lamp Time	現在使用中のランプの使用時間を表示します。
Filter Time	現在使用中のフィルターの使用時間を表示します。
Power Status	現在の電源状態を表示します。
Input Status	現在使用中の選択されている映像入力端子を表示します。
Blank On/Off	ブランクの有効化 / 無効化の状態を表示します。
Mute	現在の音声出力の消す / 出すの状態を表示します。
Freeze	現在の映像を静止させる / 静止させないの設定を表示します。

Network Restart（ネットワークリスタート）

プロジェクターのネットワーク接続を再起動します。

項　目	説　明
Restart	プロジェクターのネットワーク接続を再起動し、新しい設定を有効にします。

お知らせ　●ネットワーク接続を再起動した後、再び Web ブラウザでプロジェクターを調整、またはプロジェクターの設定を変更するには、再度ログオンする必要があります。

ログオフ

ログオフをクリックすると、ログオン画面が表示されます（📖 図 2.5.a）。

2.6 Web ブラウザを使ってプロジェクターをリモートコントロールする

プロジェクターを正しく設定し、無線または有線 LAN でプロジェクターを PC に接続すれば、Web ブラウザを使用してプロジェクターを遠隔操作することができます。

お知らせ ●リモコンとWebブラウザを同時に使用してプロジェクターを操作しないでください。同時に使用すると、誤動作が生じるおそれがあります。

プロジェクターとの通信を行うには、Web ブラウザを開きます。Web ブラウザは、Internet Explorer 5.5 以降に対応しています。
URL を "http://（プロジェクターの IP アドレス）/" に設定します。
例 : http://192 .168.1.10/
（上記の URL 例はプロジェクターのデフォルト IP アドレスです。）
Logon メニューが表示されたら自分の ID とパスワードを入力し、**[Logon]** をクリックします。ウィンドウ（図 2.6.a）が表示されます。

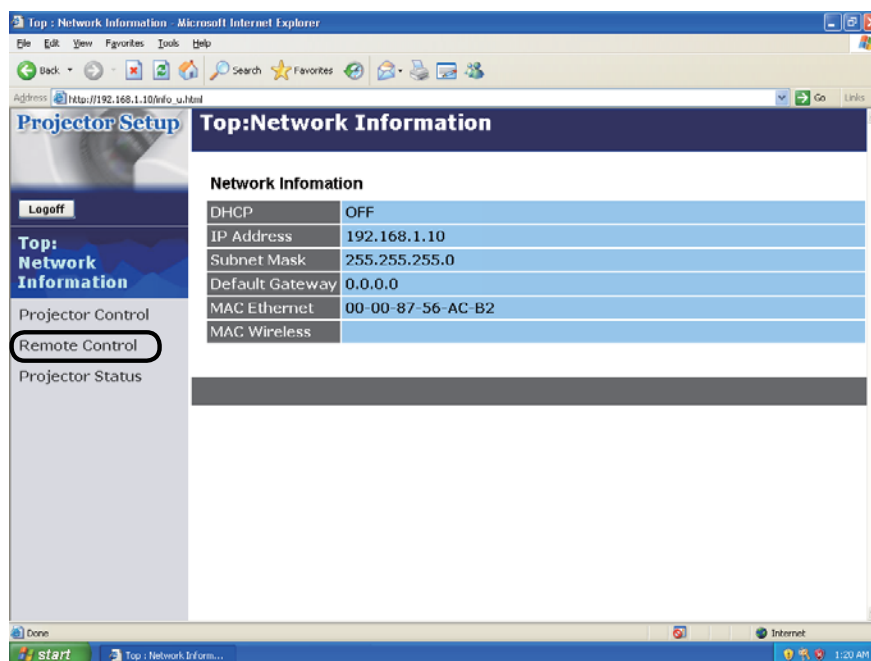
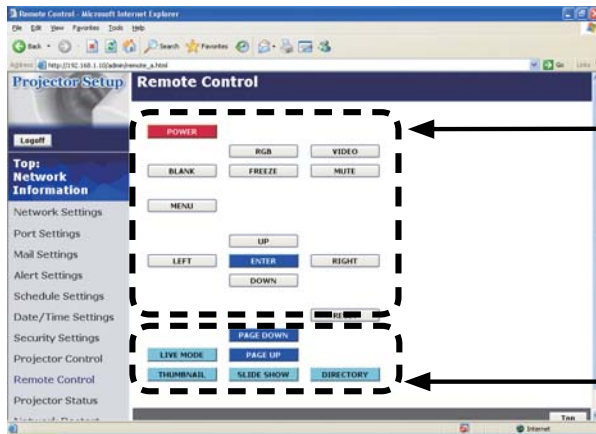



図 2.6.a Web リモートコントロール選択ウィンドウ

2.6 Web ブラウザを使ってプロジェクターをリモートコントロールする（つづき）

このウィンドウの左側にある **[Remote Control]** をクリックし、Web のリモートコントロール画面（図 2.6.b）を表示します。

Web のリモートコントロール画面を使用し、リモコン（プロジェクターに付属）と同じ操作を実行することができます。
Web のリモートコントロール画面の各 UP/LEFT/RIGHT/DOWN ボタンは、リモコンの各矢印ボタン▲ / ◀ / ▶ / ▼に相当します。**[RGB] [VIDEO] [BLANE] [FREEZE] [MUTE] [MENU] [ENTER]** の各ボタンも同じボタンに相当します。

また、以下の各ボタンをクリックすると、そのモードが起動します。
- LIVE MODE (ライブモード)
- THUMBNAIL (サムネイル)
- SLIDE SHOW (スライドショウ)
- DIRECTORY (ディレクトリ)

図 2.6.b Web のリモートコントロール画面

お知らせ ●これらのボタンを押したままにしてもコマンドを連続して送ることはできません。押したままにする代わりにボタンを繰り返しクリックする必要があります。
●ボタンを連続してクリックすると、一部のコマンドが正常に送信されないことがあります。
少し間をおいて再度クリックしてください。
● [POWER] ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。
[OK] をクリックしてプロジェクターの電源を切るか、[CANCEL] をクリックしてプロジェクターの電源を入れた状態にします。
● Web のリモートコントロール画面の [PAGE DOWN] ボタンと [PAGE UP] ボタンでマウス機能の操作を実行することはできません。

3. 専用ソフトウェアの使い方 – 基本編

3.1 “MIU LiveViewer”について

この項では、専用ソフトウェアの“MIU LiveViewer”の使用方法について説明します。

3.1.1 “MIU LiveViewer”をインストールするためには

“ライブモード”を使用するには、プロジェクターと一緒に使用する PC に、付属のソフトウェア“MIU LiveViewer”をインストールする必要があります。

PC に必要なハードおよびソフトの必要条件

- OS ： Windows 2000 Professional Service Pack 4、Windows XP Home /Professional 以降
- グラフィックインタフェース ： DirectX 6.1a 以上、Video RAM 4MB 以上（推奨 8MB）
- CPU ： Pentium III（推奨 600MHz 以上）
- ディスプレイ ： VGA 640x480 以上（推奨 XGA 1024x768）、65,536 色表示以上

お知らせ ●プロジェクターと LAN で接続する PC の解像度は XGA 以下に設定してください。
●場合によって画面が正しく表示されないことがあります。たとえば 1024x768 より高い解像度に設定されている画面では、画面の 1024x768 部分のみが表示されます。
● OS のバージョンやネットワークアダプタドライバに問題があると、画像を適切に送信できないことがあります。OS とドライバは最新バージョンを使用することをお勧めします。

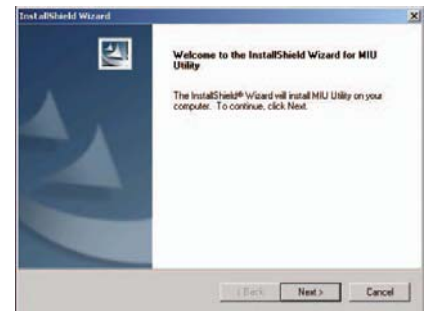
- メモリ ： 64MB 以上（Windows XP 使用の場合 128MB 以上を推奨）
- ハードディスク空き容量 ： 10MB 以上
- Web ブラウザ ： Internet Explorer®（5.5 あるいはそれ以降のバージョン）
- CD-ROM ドライブ

・PC カードスロット（PCMCIA Type-II）インタフェースをもつ PC と IEEE802.11b あるいは g の無線 LAN PC カードの組合せ、または、USB インタフェースをもつ PC と IEEE802.11b あるいは g の無線 LAN USB アダプタ

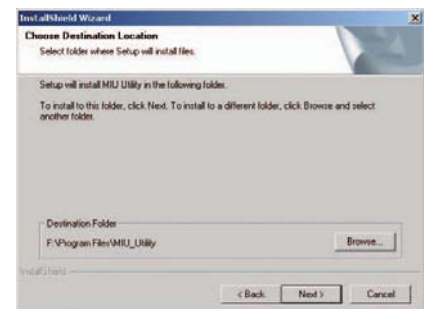
お知らせ ● PC に IEEE802.11b あるいは g の無線 LAN デバイスが搭載されている場合は必要はありません。
● PC に内蔵の無線 LAN 機能が搭載されていても、プロジェクターと一部の無線 LAN 装置や PC との間で正常に通信できない場合があります。
その場合は通信関連の障害を防止するために、Wi-Fi 認定の無線 LAN 装置を使用してください。
● IEEE802.11b を使用した場合、画面の更新が遅くなります。IEEE802.11g をご使用になることをおすすめいたします。

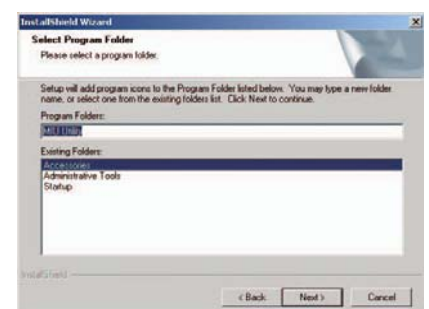
3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

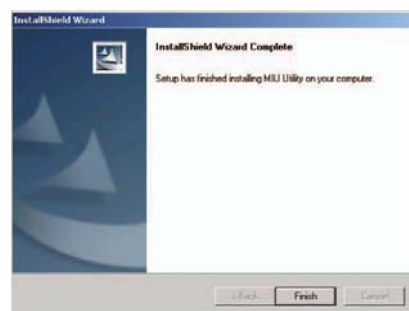
3.1.2 ソフトウェアのインストール手順

1) PC の電源を入れます。
2) 他に開いているアプリケーションがあればすべて閉じます。
3) 付属の CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに挿入します。
4) 少し間を置いて、右側の“Welcome to the InstallShield Wizard for MIU Utility”ダイアログが表示されます。“Next”をクリックします。

お知らせ ●“Welcome to the InstallShield Wizard for MIU Utility”ダイアログが表示されない場合は、以下の手順に従ってください。
(1) ツールバーから“Start”ボタンをクリックして、“Run”を選択します。
(2) “E:\software\setup.exe”と入力してから“OK”をクリックします。
PC で CD-ROM ドライブが E ドライブでない場合は、E の代わりに CD-ROM ドライブに割り当てられているドライブ文字を入力してください。

ソフトウェアがすでにインストールされている場合、ソフトウェアは削除されます。ソフトウェアの削除を取り消す場合は、“Cancel”ボタンをクリックします。間違ってソフトウェアを削除した場合は、上の手順に従って再インストールしてください。

5) License Agreement（ライセンス契約書）のダイアログが表示されますのでお読み頂き、了承頂けますのであれば Yes のボタンを押してください。
6) “Choose Destination Location”ダイアログが表示されたら、“Next”をクリックします。

お知らせ ●“C:\Program Files\MIU_Utility”フォルダが作成され、プログラムはそのフォルダにインストールされます。
●別のフォルダにインストールしたい場合は、“Browse”をクリックし、インストール先のフォルダを選択します。

7) プログラムのフォルダ名を確認します。フォルダ名が“MIU_Utility”でよければ、“Next”をクリックして先に進みます。フォルダ名を変更したい場合は、好きな名前を入力し、“Next”をクリックします。

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

8）ハードウェアのインストールのウインドウが出たら“続行”を押してください。
9) 少し間を置いて、インストールが完了すると右側の“InstallShield Wizard Complete”ダイアログが表示されます。“Finish”をクリックすると自動的に PC をリスタートします。
これでソフトウェアのインストールが完了しました。

(1) ソフトウェアが正常にインストールされたことを確認したい場合、タスクバーの“スタート”をクリックし、“プログラム”を選択して次に“MIU Utility”フォルダを選択します。
(2) インストールが正常に終了していれば、“MIU Utility”フォルダ内に“MIU LiveViewer”が表示されます。

3.1.3 “MIU LiveViewer”の画面の説明

“MIU_LiveViewer.exe”をダブルクリックして起動します。図 3.1.3.a の画面が表示されます。

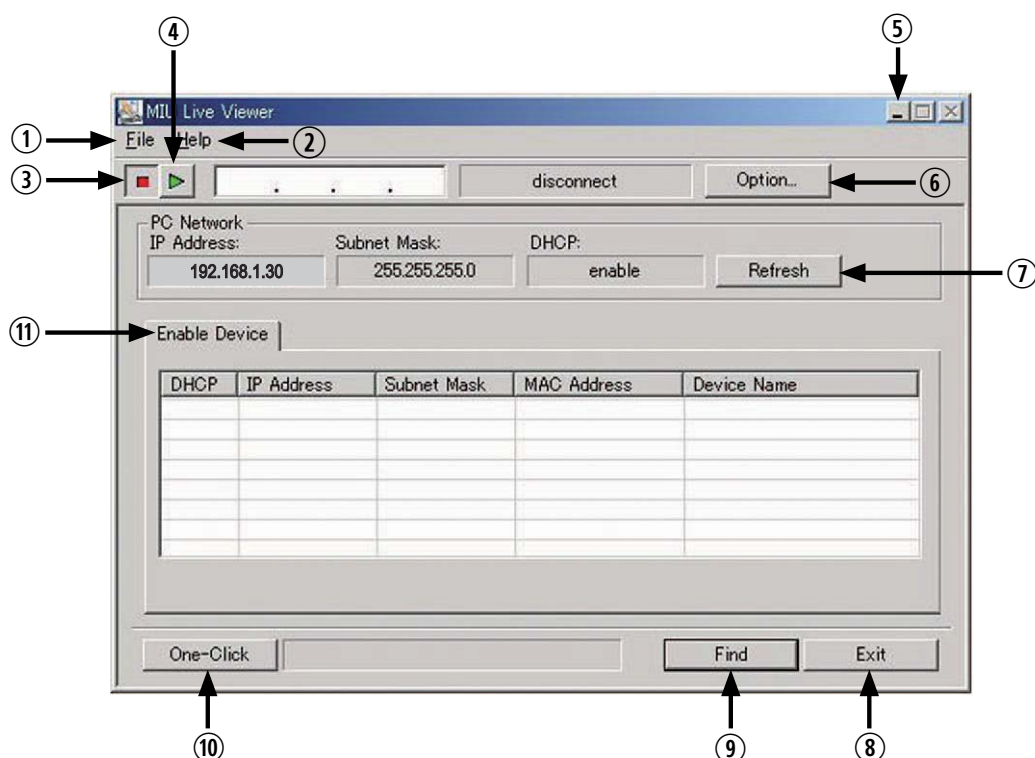



図 3.1.3.a “MIU LiveViewer”ウィンドウ

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

[“MIU LiveViewer”ウィンドウ：図 3.1.3.a]

1) “File”ボタン
   ファイルメニューを表示します
2) “Help”ボタン
   “MIU LiveViewer”の詳細を表示します
3) ストップボタン
   プロジェクターを停止します。
4) キャプチャスタートボタン
   ライブモードでのリアルタイム表示を開始します。

   〜お知らせ〜
   スタート / ストップボタンを何度も繰り返してクリックすると、映像が正常に表示されない場合があります。

5) 最小化ボタン
   “MIU LiveViewer”ウィンドウを閉じ、“MIU LiveViewer”をタスクトレイにアイコンで表示します。
6) “Option”ボタン
   “Option”ウィンドウを表示します。
7) “Refresh”ボタン
   PC の現在のネットワーク設定を更新します。
8) “Exit”ボタン
   “MIU LiveViewer”プログラムを終了します。
9) “Find”ボタン
   接続可能なプロジェクターを検索します。
10) “One-Click”ボタン
    自動でプロジェクターと PC を接続します。
11) “Enable Device”
    接続可能なプロジェクターの一覧を表示します。

お知らせ ●接続されている PC が 1 台のみの場合、“ライブモード”を終了するか、プロジェクターの電源を切らない限り、最後に表示された画像がスクリーンに残ります。
この機能により、プロジェクターとの通信を一度切ってもスクリーンに画像が残っている間に、PC 上でファイルの準備ができます。

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

[“Options”ウィンドウ]
[“General”タブ、図 3.1.3.b]

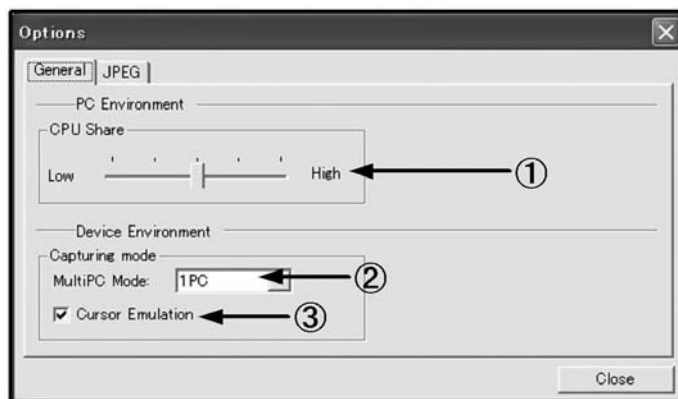



図 3.1.3.b “Options”ウィンドウの“General”タブ

1）“CPU Share”
コントロールバーを使って、PC 画面をキャプチャするための CPU 使用率を設定します。
Low（左端）: “MIU LiveViewer”以外のアプリケーションが CPU リソースを大幅に使用する場合はこちらに設定します。左側に設定すると画面のリフレッシュ速度が低下するので、頻繁に表示パターンを変更する場合には不適切です。
High(右端): “MIU LiveViewer”が CPU リソースを大幅に使用する場合はこちらに設定します。“MIU LiveViewer”の画面のリフレッシュ速度は上がりますが、他のアプリケーションのリフレッシュ速度は下がります。

2) “MultiPC Mode”
プロジェクターに同時に表示する PC の台数（1 ～ 4 台）を設定します。

3) “Cursor Emulation”
PC の表示カーソル（ポインタ）が出力画面に表示されない場合は、このチェックボックスをチェックします。カーソルが 2 つ（PC とプロジェクター）表示されている場合はチェックボックスのチェックを外します。

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

[JPEG タブ]

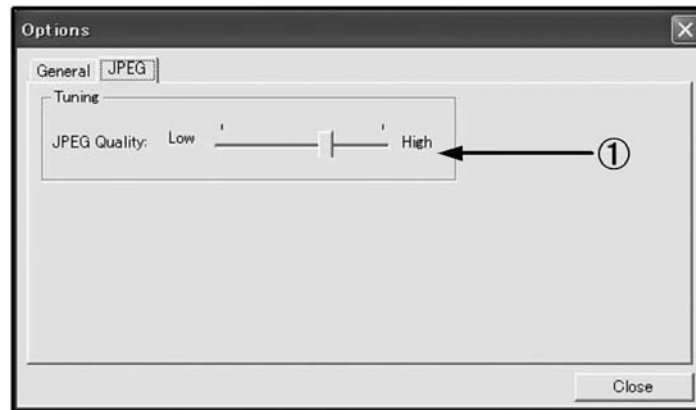



図 3.1.3.c “Options”ウィンドウの“JPEG”タブ

1）“JPEG Quality”
“MIU LiveViewer”は PC 画面の画像をキャプチャし､JPEG で圧縮したものをプロジェクターに送信します。 このタブのコントロールバーを使用して JPEG の圧縮率を設定できます。
Low（左端、低画質）: JPEG 圧縮率を高くする。圧縮率を高く設定すると、送信するデータ量が少なくなるため画面の書換る早さは上がりますが、画質は低下します。
High（右端、高画質）: JPEG 圧縮率を低くする。圧縮率を低く設定すると、送信するデータ量が多くなるため画面の書換る早さは少し遅くなりますが、画質は高くなります。

[タスクトレイのアイコン]
タスクトレイに“MIU LiveViewer”アイコンを表示する場合、“MIU LiveViewer”ウィンドウの最小化ボタンをクリックします。接続時には黄色の稲妻マークが付いたアイコンが表示されます。また切断時には赤い×マークの付いたアイコンが表示されます。（図 3.1.3.d は接続時のアイコンを示します。）

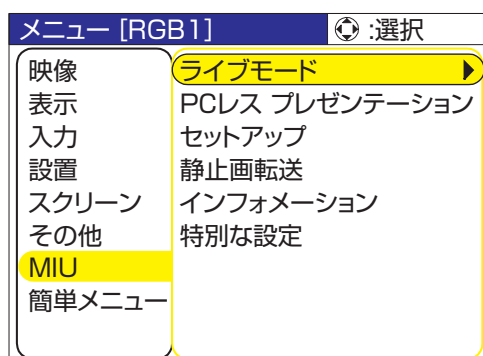
図 3.1.3.d タスクトレイのアイコン

タスクトレイの“MIU LiveViewer”アイコンをダブルクリックすると、“MIU LiveViewer”ウィンドウが表示されます。

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

3.1.4 “MIU LiveViewer”の使い方 – 基本編

ここでは、“MIU LiveViewer”機能の基本的な使用について説明します。
• “MIU LiveViewer”を開始する前に、次の手順に従ってプロジェクターを“ライブモード”に設定します。

1) Web ブラウザのリモートコントロールでの操作
 (1) “ライブモード”を選択します。
2) プロジェクターのメニューでの操作
 (1) プロジェクターの▲ / ◀ / ▶ / ▼ボタンのいずれか、またはリモコンの MENU ボタンを押して、プロジェクターのメニューを開きます。
 (2) リモコン、またはプロジェクターのボタンを使用して“MIU”メニューを選択します。
 (3) “MIU”メニューの“ライブモード”を選択し、プロジェクターの▶ボタンを押すか、リモコンの ENTER ボタンを押します。

• プロジェクターを“ライブモード”に設定した後
1) “MIU LiveViewer”を起動します。“MIU LiveViewer”をまだインストールしていない場合は、3.1.1 項「“MIU LiveViewer”のインストール」の手順に従ってインストールしてください。

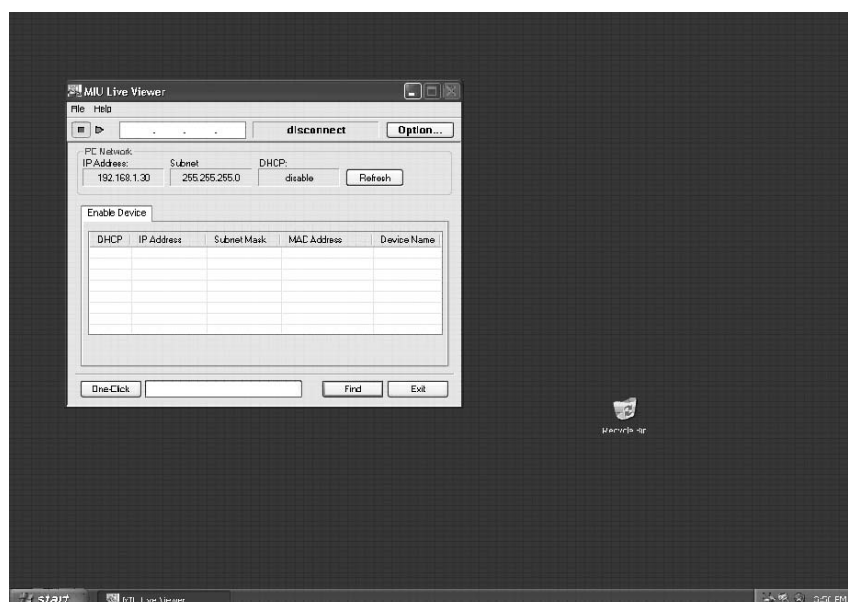



図 3.1.4.a “MIU LiveViewer”メインウィンドウ

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

2) Web によるリモートコントロールを起動し（📖42「Web ブラウザを使ってプロジェクターをリモートコントロールする」を参照）、“ライブモード” ボタンをクリックします。プロジェクターが接続待ちの画面になります。
3) 下記の手順に従ってプロジェクターに接続します。
   (1) “Find” ボタンをクリックして、接続可能なプロジェクターを検索します。プロジェクターが見つからず、“Enable Device” タブにプロジェクターが表示されない場合、2.2 項を参照した上でもう一度検索を試みてください。

接続可能なプロジェクターが検索されたら、ここに表示されます。

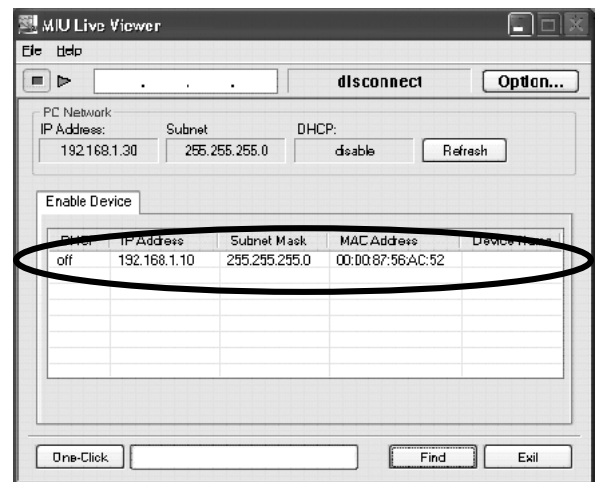



図 3.1.4.b プロジェクターの検索結果（1）

   (2) 上記（1）の手順を実行して接続可能なプロジェクターが検索されたら、接続して PC の画面を映したいプロジェクターをクリックして選択してください。

接続したプロジェクターの行をクリックすると（まだ接続されません）、プロジェクターの IP アドレスがキャプチャスタートボタンの右側のスペースに表示されます。

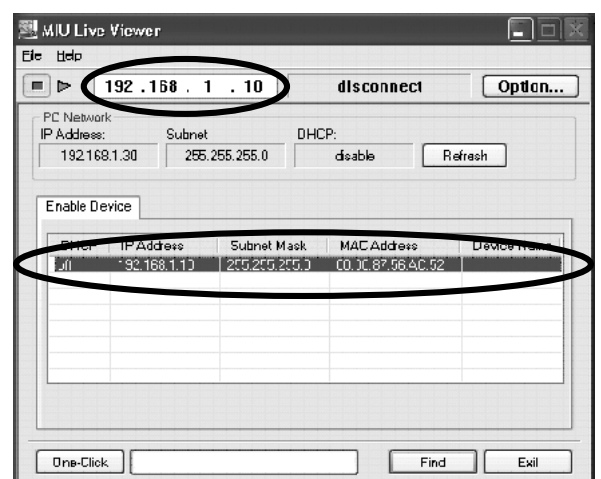



図 3.1.4.c プロジェクターの検索結果（2）

3.1 “MIU LiveViewer”について（つづき）

(3) キャプチャ開始ボタンをクリックします。

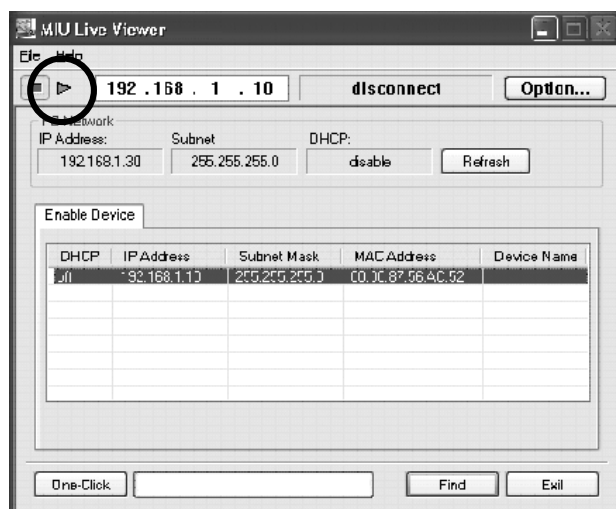



図 3.1.4.d キャプチャを開始

上記の手順を行った後、PC 画面の画像がプロジェクターに表示されたら、正常に接続されたことになります。“One-Click”機能（2.2 項）を使用すると、プロジェクターとの接続が容易になります。ここでは“MIU LiveViewer”の基本的な使い方をまずご説明しました。より進んだ使い方については 📖54「“MIU LiveViewer”の使い方 - 応用編」を参照してください。

3.2 “PC レス プレゼンテーション”機能の使い方 – 基本編

ここでは、“PC レス プレゼンテーション”機能の基本的な使い方について説明します。

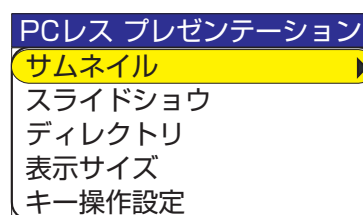
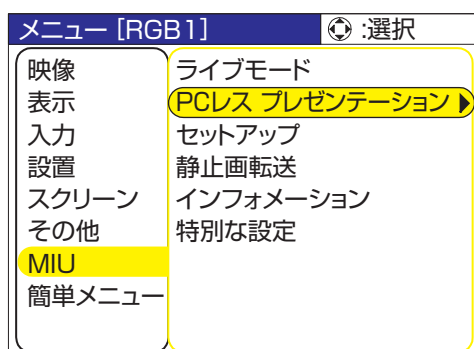
1) JPEG 画像ファイルを SD メモリカードまたは USB メモリのルートディレクトリに保存します。SD メモリカードをプロジェクターの SD スロットに、または USB メモリを AUX I/O ポートに差し込みします。(📖 取扱説明書 SD カード /USB メモリを挿入する)
2) 3 章を参照してネットワークを接続し、Web ブラウザでリモートコントロールを起動してください。
3) Web ブラウザの」リモートコントロールから [THUMBNAIL] ボタンをクリックして、プロジェクターのモードを“PC レス プレゼンテーション”モードにします。“サムネイル”画面が表示されます。
4) SD メモリカードや USB メモリを抜き取る場合は、“MIU”メニューの“特別な設定”でメディアを抜き取るための機能を選択して成功のメッセージが出てから抜き取ります。
もし、抜き取りを失敗しましたというメッセージが出た場合は、少し待って再び抜き取りのメニュー操作を行ってください。

3.2 “PC レス プレゼンテーション”機能の使い方 – 基本編（つづき）

上記の手順を終えると“サムネイル”画面（図 3.2.a）が表示されます。ここでは“PC レス プレゼンテーション”機能の基本的な使い方を説明します。より進んだ使い方については、セクション4.2を参照してください。

図 3.2.a サムネイルモード

“PC レス プレゼンテーション”機能はプロジェクターのメニューからも起動できます。

1) リモコンの MENU ボタン、またはプロジェクターの▲ / ◀ / ▶ / ▼ボタンを押して、プロジェクターのメニューを開きます。
2) “MIU”メニューの“PC レス プレゼンテーション”を選択して、リモコンの ENTER ボタンかプロジェクターの▶ボタンを押します。“PC レス プレゼンテーション”メニューが表示されます。

3) “PC レス プレゼンテーション”メニューの“サムネイル”を選択して、リモコンの ENTER ボタンかプロジェクターの▶ボタンを押します。“サムネイル”画面が表示されます。

⚠注意 ●メモリカードへのアクセス中はカードを抜き取らないでください。
● SDHC（4GB など）の SD メモリカードはサポートされていません。標準の SD メモリカードのみ対応しており、容量は最大 2GB までです。
● SD メモリカードまたは USB メモリの種類によっては正常に動作しないものもあります。
●セキュア USB メモリはサポートされていません。

4. より進んだ使い方について

4.1 “MIU LiveViewer”の使い方 – 応用編

ここでは、複数の PC の画像を一度に表示する方法を説明します。

4.1.1. 複数の PC を 1 台のプロジェクターに接続（複数 PC 接続）

複数の PC を接続して、プロジェクター 1 台に一度に表示することができます。1 台のプロジェクターで最大 4 台まで接続可能です。

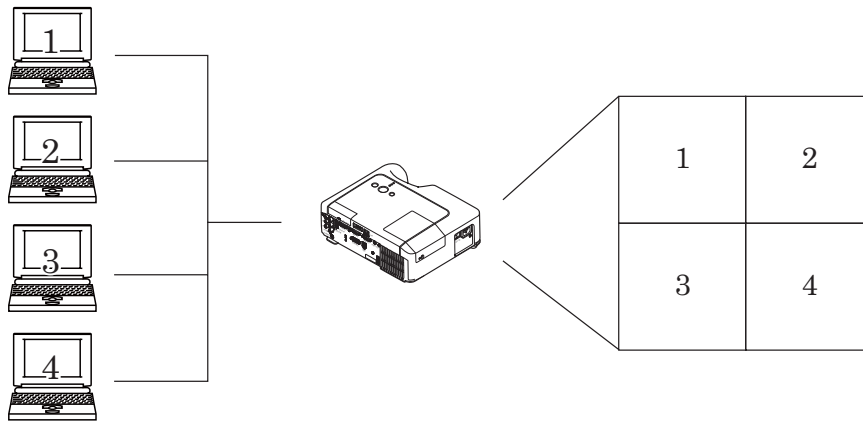



図 4.1.1.a 複数 PC 接続の例

複数の PC を接続するには、以下の機器が必要です。
- 2 ～ 4 台の PC（すべて“MIU LiveViewer”がインストール済みであること）
- プロジェクター（1台）
- CAT-5 LAN ケーブル : 必要数 *（有線 LAN 接続の場合）
- イーサネットハブ（有線 LAN 接続の場合）

* 無線 LAN でプロジェクターと接続するには、すべての PC の無線通信機能が有効になっていなければなりません。ワイヤレスネットワークカードをプロジェクターに接続してください。
[INFRASTRUCTURE] モードで接続する場合には無線アクセスポイントが必要です。(📖16)

4.1 “MIU LiveViewer”の使い方 - 応用編（つづき）

[接続]

1) LAN ケーブルとハブで、全ての PC とプロジェクターを接続します（図 4.1.1.a 参照）。
2) 各 PC で“MIU LiveViewer”を起動します。各 PC の IP アドレスをチェックし、それぞれの IP アドレスが重複していないかどうかを確認します（[192.168.1.xxx] の xxx の部分は各 PC で異なる）。
3) “MIU LiveViewer”の“Find”ボタンをクリックして、接続可能なプロジェクターを検索します。
4) プロジェクターを検索できたら、“MIU LiveViewer”の“Option”ボタンをクリックします。“General”タブが開くので、“MultiPC Mode”で接続する PC の台数を選択します。PC の台数を設定したら、“Close”ボタンをクリックします。
5) キャプチャスタートボタンをクリックします。
6) すべての PC で 3) から 5) までの手順を繰り返します。

* 画面の優先順位を表示します。
表示優先順位は、PC をプロジェクターに接続した順番に基づいて自動的に決まります。モードごとに異なる優先順位が指定されます（図 4.1.1.b 参照）（番号が小さいほど優先度が高い）。

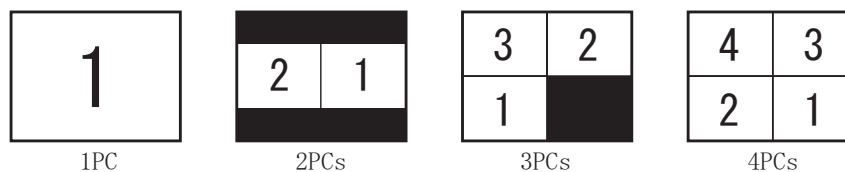



図 4.1.1.b 各モードでの優先順位

優先順位の決定条件を以下に示します。
a) 後で接続する PC ほど優先順位が高くなります。
b) “MultiPC Mode”（最大４台までの PC）を 1PC モードに切り換えた場合、その PC が最も高い優先順位になります。
c) “MultiPC Mode”の設定は、PC が通信しているときでも自由に切り換えることができます。
d) “MultiPC Mode”で設定した PC の台数が、接続されている PC の台数よりも少ない場合、優先順位の低い PC の画面は表示されませんが、プロジェクターとの接続は維持されています。5 台以上の PC がプロジェクターに接続されていると、優先順位が低い PC の接続は切断されます。

お知らせ ●“MultiPC Mode”のとき、PC の画面解像度を変更した場合、その PC の優先順位が最上位になります。このとき、その PC のモード設定がプロジェクターに反映されますのでご注意ください。
●“MultiPC Mode”では、各画面の画像解像度は実際の画像の 1/4 になります。このため、小さな文字や線は判読できないこともあります。
できるだけ大きな文字を使用してください。クロック位相の調整を手動で行うと画質を良くなる場合もあります。

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編

“PC レス プレゼンテーション”モードでは、SD メモリカードまたは USB メモリから画像データを読み取って表示します。画像の表示は次のいずれかの表示モードを使用します。
SD メモリカードとワイヤレスネットワークカードを同時に使用する（プロジェクターに挿入する）ことはできません。

- サムネイルモード（セクション 4.2.1）
- 全画面モード（セクション 4.2.2）
- スライドショウモード（セクション 4.2.3）
- ディレクトリモード（セクション 4.2.4）

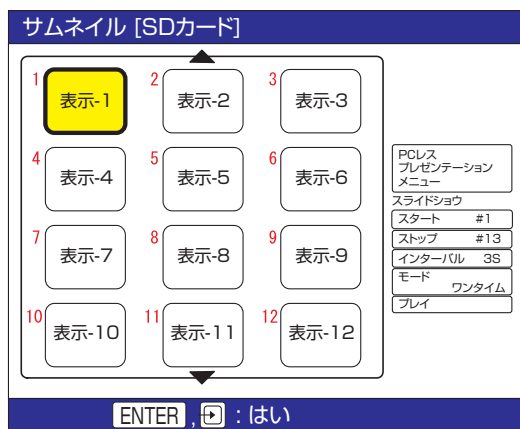



図 4.2.a サムネイルモード

図 4.2.b 全画面モード

図 4.2.c スライドショウモード

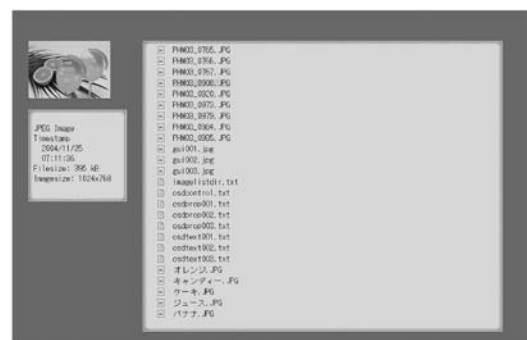



図 4.2.d ディレクトリモード

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

“PC レス プレゼンテーション”機能で表示できる映像または動画のファイル形式は以下の通りです。
- JPEG (.jpeg, .jpg) ＊ただし、プログレッシブエンコード JPEG は除きます。
- BMP (.bmp)
- PNG (.png)
- MPEG4 (.mp4) ＊Simple Profile でビット解像度 1Mbps 以下をサポートしています。

解像度は VGA までをサポート。
オーディオ形式は AAC をサポートしています。

4.2.1 サムネイルモードの使い方

図 4.2.1 にサムネイルモードを示します。サムネイルモードに切り換える場合、Web ブラウザのリモートコントロールで **[THUMBNAIL]** ボタンをクリックします。
リモコン、またはプロジェクターのボタンを使用してサムネイル表示モードにすることもできます(📖53)。

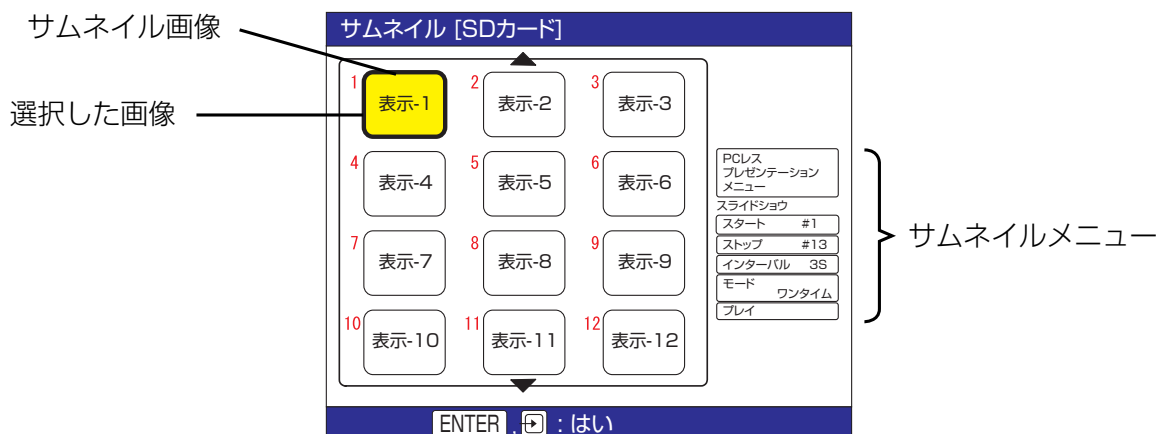



図 4.2.1 サムネイル表示モード

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

サムネイル表示モードのときは次の操作が可能です。

▲ / ◀ / ▶ / ▼ リモコン / プロジェクターのボタン	カーソルを移動します。
PAGE UP　PAGE DOWN リモコン	ページを切り替えます。
ENTER　リモコン INPUT　プロジェクターのボタン	選択した画像をフルスクリーン表示モードで表示します。
MENU　リモコン	“PC レス プレゼンテーション”メニューを表示します。

* 上記の操作は、プロジェクターのメニュー表示中は実行できません。

お知らせ ●サムネイル表示モードでは 1 ページに最大 12 枚の画像を表示します。
●サムネイル、スライドショウ、ディレクトリの各モードで操作しているとき、プロジェクターの INPUT ボタンを押しても入力ポートを切り換えることはできません。
●入力ポートを切り換える場合、プロジェクターのメニューを開いてから切り換えてください。
●右端の列にある画像のどれかを選択して▶ボタンを押すと、サムネイルメニューが選択されます。
●画像が読み込めないなどの問題が発生した場合、サムネイルの画像の代わりにエラーアイコンが表示されます。

ファイルが破損しているか、サポートされていない形式が使われています。

ファイルはプレイリスト（📖67）の一覧にありますが、実際のファイルは存在しないか、見つかりません。

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

4.2.2 全画面モードの使い方

フルスクリーン表示モードは（図 4.2.2)、スクリーン全体に 1 つの画像を表示します。サムネイル表示モードでサムネイルが選択されている状態で、[ENTER] をクリックすると全画面モードとなりフルスクリーンサイズの画像を表示できます。

フルスクリーン表示

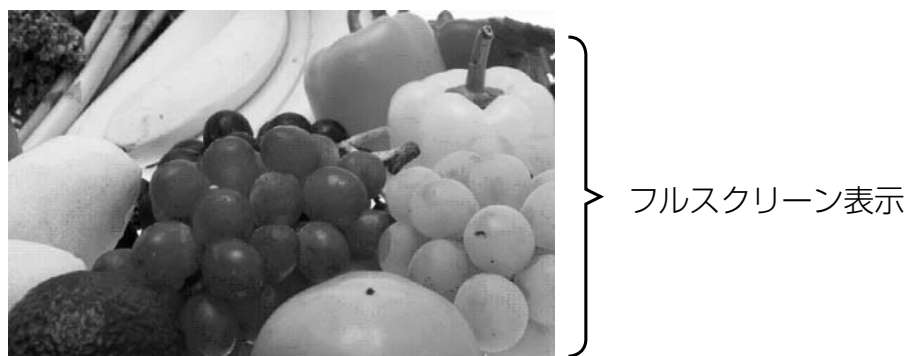



図 4.2.2 全画面モード

全画面モードのときは次の操作が可能です。

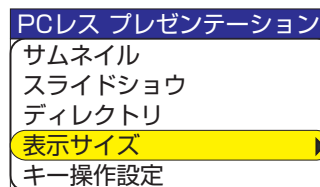
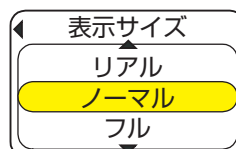
◀ / ▶または▲ / ▼ （キー操作設定メニューで 選択 🕮60)	• 右回り / 左回りで 90 度画像を回転します。画像を回転させると、表示モードをサムネイル / スライドショウ表示モードに変更しても画像はそのままになります。画像を元に戻したい場合、画像を 360 度回転させるか、メモリカード内のプレイリストを消去します。(🕮67） • 前後の画像にスライドします。
ENTER リモコン INPUT プロジェクターのボタン	サムネイル表示モードに切り換えます。
MENU リモコン	“PC レス プレゼンテーション”メニューを表示します。

* 上記の操作は、プロジェクターのメニュー表示中は実行できません。

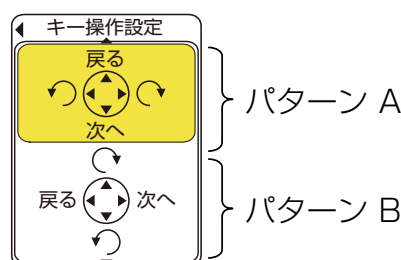
お知らせ ●サムネイル、スライドショウ、ディレクトリの各表示モードで操作しているとき、プロジェクターの INPUT ボタンを押しても入力ポートを切り換えることはできません。
●入力ポートを切り換える場合、プロジェクターのメニューを開いてから切り換えてください。
● MP4 ファイルの再生で開始と終了部分の画像が適切に表示されない場合があります。

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

静止画像の表示を変更することもできます。
1) “PC レス プレゼンテーション”メニューで“表示サイズ”を選択します。
2) リモコンの ENTER ボタン、またはプロジェクターの▶ボタンを押します。

PCレス プレゼンテーション
サムネイル
スライドショウ
ディレクトリ
表示サイズ
キー操作設定

3) “表示サイズ”メニューが表示されます。

4) 表示サイズを選択します。
- リアル　：実際の画像サイズで表示します。
  画像のオリジナルサイズがスクリーンサイズより小さい場合、スクリーン中央に画像を表示します。画像のオリジナルサイズがスクリーンサイズより大きい場合、画像の中央部分のみ表示します。
- ノーマル：画像のオリジナルのアスペクト比を維持しながら可能な限り最大サイズで画像全体を表示します。
- フル　　：フルスクリーンサイズで画像を表示します。
  画像のアスペクト比は、スクリーンのアスペクト比に変わります。

動画の場合、動画ファイルの解像度が VGA より高い場合、それらの動画ファイルは常に VGA モードで再生されます。
動画ファイルの解像度が VGA より低い場合、それらの動画ファイルは常にスクリーン中央で再生されます。
パワーポイントを JPEG ファイル交換形式で保存すると解像度が低くなり、ノーマル表示では粗い映像となる場合があります。この場合、設定をリアル表示にしていただくか、パワーポイントの「ファイル」-「ページ設定」-「スライドのサイズ指定」にて「ユーザ設定」から幅と高さを大きくしてから JPEG ファイル交換形式で保存することをお奨めします。

サムネイル表示モードとディレクトリ表示モードでの▲ / ▼ / ◀ / ▶ボタンは、次の 2 つの設定から 1 つを選んで私用してください。選択方法は次の通りです。
1) “PC レス プレゼンテーション”メニューで“キー操作設定”を選択します。
2) ▶ボタンを押します。
3) “キー操作設定”メニューが表示されます。

4) キー設定を選択します。以下の 2 つの設定パターンがあります。
- パターン A：◀：左回転　▶：右回転
  ▲：前の画像　▼：次の画像
- パターンB：◀：前の画像　▶：次の画像
  ▲：右回転　▼：左回転

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

4.2.3 スライドショウモードの使い方

スライドショウモードは（図 4.2.3）、一連の画像をスクリーン全体に順番に表示します。
スライドショウモードを選択するには、Web ブラウザのリモートコントロールの [SLIDE SHOW] ボタンをクリックします。各画像の表示時間はプレイリスト（📖67）またはメニューを使って設定できます。

図 4.2.3 スライドショウモード

スライドショウモードのときは次の操作が可能です。

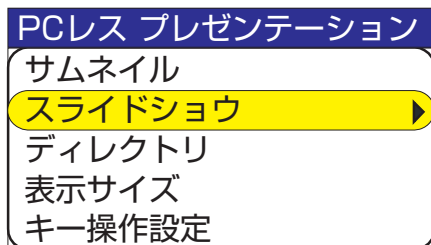
ENTER リモコン INPUT プロジェクターのボタン	サムネイル表示モードに切り換えます。
MENU リモコン	“PC レス プレゼンテーション”メニューを表示します。

* 上記の操作は、プロジェクターのメニュー表示中は実行できません。

お知らせ ●サムネイル、スライドショウ、ディレクトリの各表示モードで操作しているとき、プロジェクターの INPUT ボタンを押しても入力ポートを切り換えることはできません。
●入力ポートを切り換える場合は、プロジェクターのメニューを開いてから切り換えてください。
●スライドショウモードでは、プレイリストに記録されている画像が表示されます。表示しようとしているディレクトリにプレイリストがない場合は、プレイリストを作成し、表示できる画像を自動的にプレイリストに登録します。
●画像がプレイリストに記載されていない場合、サムネイルモード / スライドショウモードで表示されません（📖67）。
●サムネイルメニューで“スタート #”、“ストップ #”、“インターバル”や“モード”の設定をすると、プレイリストで設定したものより優先されます。
●優先順位をリセットするには、“slidemode.txt”ファイルをディレクトリから削除します。
●“スライドショウ”の“モード”を“ワンタイム”に設定している場合、リモコンの ENTER ボタンか、プロジェクターの INPUT キーを押さない限り、スライドショウの最後のスライドが表示され続けます。

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

スライドショウ表示モードはプロジェクターのメニューからも起動できます。
“PC レス プレゼンテーション”メニューから“スライドショウ”を選択して、リモコンの ENTER ボタンかプロジェクターの▶ボタンを押します。スライドショウが起動します。

PCレス プレゼンテーション
サムネイル
スライドショウ ▶
ディレクトリ
表示サイズ
キー操作設定

“サムネイル”画面のサムネイルメニューからスライドショウの再生オプションを設定できます。

1) スタート #　：スライドショウを開始する画像番号を設定します。画像番号はサムネイルモード時に画像の左上に表示されている番号です。
2) ストップ #　：スライドショウを終了する画像番号を設定します。
3) インターバル：スライドショウで画像 1 枚あたりの表示時間を設定します。動画の場合はインターバルに関わらず動画の長さだけ再生します。
4) モード　：スライドショウの再生モードを選択します。次の 2 種類があります。
　ワンタイム：スライドショウを 1 回再生します。
　エンドレス：スライドショウの終了の画像を表示すると再び最初に戻ることを繰り返し続けます。
5) プレイ　：スライドショウを開始します。

4.2.4 ディレクトリモードの使い方

ディレクトリモード（図 4.2.4）は、メモリカードに保存されているディレクトリとファイル（表示できないファイルも含む）の一覧をツリー表示します。ディレクトリモードに切り替えるには、Web ブラウザのリモートコントロールで **[DIRECTORY]** ボタンをクリックするとモードが切り替わりディレクトリツリーが表示されます。ディレクトリ表示モードの画面左上に、現在選択されている画像ファイルのプレビューが表示されます。動画ファイルの場合、動画の中の最初の画像がプレビューで表示されます。ディレクトリや表示不能なファイルのプレビューは表示されません。表示可能なファイルであれば、ファイルを選択して ENTER ボタンを押すと全画面で表示できます。ディレクトリを選択して、ENTER を押すと、サムネイルモードへ移りディレクトリ内のファイルを表示します。

図 4.2.4 ディレクトリモード

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 - 応用編（つづき）

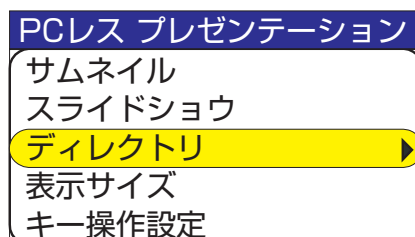
ディレクトリ表示モードのときは次の操作が可能です。

操作	説明
▲ / ▼	項目を選択するカーソルを上下に移動します。
▶	閉じているフォルダを開きます。
◀	開いているフォルダを閉じます。
PAGE UP　PAGE DOWN リモコン	ツリー表示が画面内に収まらない場合、表示されていない部分を表示します。
ENTER リモコン INPUT プロジェクターのボタン	選択箇所が表示可能なファイルの場合、全画面で表示します。ディレクトリを選択していると、サムネイルモードへ移り、そのディレクトリのサムネイルを表示します。表示不可能なファイルは再生できません。全画面の表示中に“ENTER”ボタンを押すと、ディレクトリ表示に戻ります。
MENU リモコン	メニューを表示します。

* 上記の操作は、プロジェクターのメニュー表示中は実行できません。

お知らせ ●サムネイル、スライドショウ、ディレクトリの各モードで操作しているとき、プロジェクターの INPUT ボタンを押しても入力ポートを切り換えることはできません。
●入力ポートを切り換える場合、プロジェクターのメニューを開いてから切り換えてください。
●ディレクトリ名およびファイル名に使用できる文字は半角英数字のみです。
●ディレクトリ表示モードで表示できるディレクトリの階層はメディアの種類を含め 10 階層までです（例えば SD メモリの中のディレクトリは 9 階層まで）。10 階層以降のファイルおよびディレクトリは表示できません。
また、ファイルやディレクトリの数が多すぎる場合、一部のファイルまたはディレクトリは表示されません。この場合、メモリカードから必要のないいくつかのファイルまたはディレクトリを削除してください。

4.2 “PC レス プレゼンテーション”の使い方 – 応用編（つづき）

ディレクトリ表示モードはプロジェクターのメニューからも起動できます。
“PC レス プレゼンテーション”メニューから“ディレクトリ”を選択して、リモコンの ENTER ボタンかプロジェクターの▶ボタンを押します。ディレクトリモードに切り換わります。

[ファイル情報]
ファイル情報として表示されるのは以下の内容です。

表示可能な画像ファイル
- File format（JPEG、PNG 、BMP）
- Time stamp（ファイルの作成日）
- File size（ファイルの容量）
- Image size（ファイルの解像度）

表示可能な動画ファイル
- File format（MP4）
- Time stamp（ファイルの作成日）
- File size（ファイルのサイズ）
- Movie size（ファイルの解像度）
- Movie time（再生時間）

ディレクトリまたは表示できないファイル
- File format（ディレクトリ：Directory、表示できないファイル：File）
- Time stamp（ファイルの作成日）
- File size（ファイルのサイズ）

4.2.5 “PC レス プレゼンテーション”でのエラー表示について

“PC レス プレゼンテーション”モードのとき、エラーメッセージが表示される場合があります。
エラーメッセージが表示される場所はスクリーン下部の灰色の部分です。

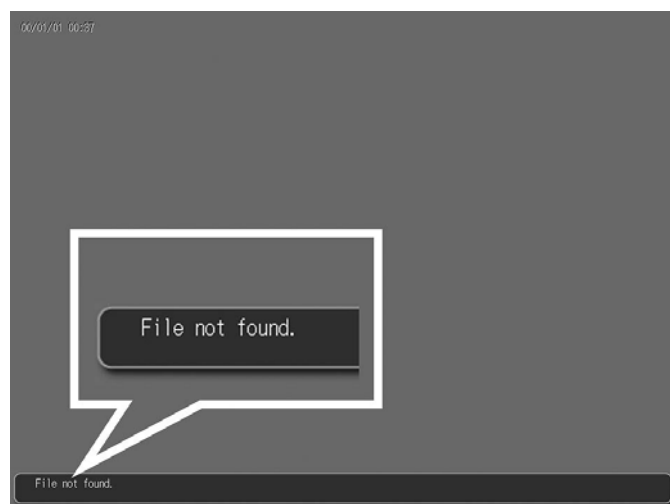



図 4.2.5 “PC レス プレゼンテーション”のエラーメッセージ

“PC レス プレゼンテーション”エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	エラー内容	表示モード
File not found	表示可能なファイルがありません。	フルスクリーン表示、スライドショウ表示
Illegal Playlist file	プレイリストファイルに問題があります。（ファイルサイズが 64KB を超えている、ファイル内の 1 行が 1022 文字を超えている、改行コードが異常など）	フルスクリーン表示、スライドショウ表示

4.3 プレイリストについて

プレイリストとはサムネイルやスライドショウモードで表示される画像ファイルおよび動画ファイルと、それらの表示される順番を決める DOS 形式のテキストファイルのことです。
プレイリストのファイル名は [imagelistdir.txt] です。“PC レス プレゼンテーション”モードで、プレイリストファイルが存在しないディレクトリを表示すると、そのディレクトリ用のプレイリストファイルが新しく自動で作成されます。作成される場所は表示しているディレクトリの中です。

お知らせ ●プレイリストは一度作成されたら自動で上書きされません。たとえば、プレイリストを作成した後で画像をメモリカードに追加保存しても、その画像は表示されません。新たに画像ファイルを追加した場合は、プレイリストを削除して新しいプレイリストを自動的に作成し直すか、手動でそれらのファイルを追加してください。

プレイリストファイルは PC 上で編集することができます。スライドショウモードの表示時間や回転情報をプレイリストファイルに設定できます。また、プレイリストファイル中のある 1 行を削除すると、その行に書かれていた画像を非表示にできます。画像ファイルを追加したときには、そのファイル名と保存先のパス名をプレイリストに追加すると、それら新しく追加したファイルを表示できるようになります。

[プレイリストへの記述例] （パス名 / パス名 /…/ ファイル名 , 表示時間 , 回転情報）

images/photo1/img001.jpg
images/photo1/img002.jpg, 2000
images/photo1/img003.jpg, 500, rot1
images/photo1/img004.jpg
images/photo1/img005.jpg, 500, rot2

ファイルの拡張子（.jpg など）に続く数字は、スライドショウの表示時間です。0 ～ 999900（ms）範囲で記述できますが、実際のスライドショウでは 100ms 単位に丸められます。表示時間に続く数字は回転情報です。右に 90 度回転させるものが rot1、rot2 は 180 度回転、rot3 は 270 度回転に対応しています。（回転なしの場合は記述しないか、rot0 を指定します。）
表示時間、回転情報はそれぞれカンマ“,”で区切って記述してください。

⚠注意 **●プレイリストの 1 行に書ける文字数は、1022 文字まで（改行コードを含めて 1024 文字まで）です。これを超えるとプレイリストとして無効になり、プレイリストのエラーで表示できなくなります。**
●プレイリストの最大サイズは 64kB までです。これを超えると無効になります。
●プレイリストに登録可能な画像ファイル数は最大で 999 です。999 を超える場合は、先頭から 999 個のファイルを利用します。
●メモリカード内に画像ファイルを追加し、それを画面上に表示させたい場合はそれまでメモリカードに保存されていたプレイリストを削除して新しくプレイリストを作り直すか、手動でプレイリストに画像を追加してください。

4.4 電子メールによるエラー / 警告の通知をする

プロジェクターのメンテナンスが必要な場合やエラー発生時に、指定の電子メールアドレスにエラー / 警告メールを自動送信させることができます。

お知らせ
- 最大 5 名までの受信者の電子メールアドレスを設定できます。
- プロジェクターの電源が突然切れた場合は、電子メールを送信できないことがあります。

メール設定（📖26）

プロジェクターの電子メール機能を使用するには、Web ブラウザから下記の項目を設定します。
例： プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

1) Web ブラウザのアドレスバーに [http://192.168.1.10] と入力します。
2) 管理者 ID とパスワードを入力して、[Logon] をクリックします。
3) メインメニューで [Port Settings] をクリックします。
4) [Enable] チェックボックスにチェックを入れて、SMTP ポートを開きます。
5) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

お知らせ
● SMTP ポートの設定を変更したら、ネットワークを再起動する必要があります。[Network Restart] をクリックし、下記の手順を実行してください。

6) [Mail Settings] をクリックし、各項目を設定します。（📖26）
7) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

お知らせ
●電子メールの設定が正しいことを確認して、[Mail Settings] の [Send Test Mail] ボタンをクリックしてください。次のようなメールが、指定されたアドレスに送信されます。

件名 : Send Mail ＜プロジェクターの名前＞
本文 : Send Test Mail
Date ＜テスト実施日＞
Time ＜テスト実施時間＞
IP Address ＜プロジェクターの IP アドレス＞
MAC Address ＜プロジェクターの MAC アドレス＞

メール設定（つづき）

8) エラー / 警告電子メールを送信するように設定します。メインメニューで [Alert Settings] をクリックします。
9) 各送信メール項目を選択して設定します。（📖27）
10) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

次のような形式でエラー / 警告が、電子メールで送信されます。

件名	:＜メールの表題＞　＜プロジェクターの名前＞
本文	:＜メールの本文＞
Date	＜エラー / 警告の発生日＞
Time	＜エラー / 警告の発生時間＞
IP Address	＜プロジェクターの IP アドレス＞
MAC Address	＜プロジェクターの MAC アドレス＞

4.5 SNMP を使ってプロジェクターを管理する

SNMP を使える環境であれば、SNMP マネージャを使ってプロジェクターのエラー / 警告を取得することができます。

お知らせ ● SNMP 機能の実行はネットワーク管理者が行うことをお勧めいたします。
● SNMP によってプロジェクターを監視できるようにするには、SNMP マネージャがコンピュータにインストールされている必要があります。

SNMP 設定（📖25）

SNMP を使用するには、下記の項目を Web ブラウザで設定する必要があります。例：プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

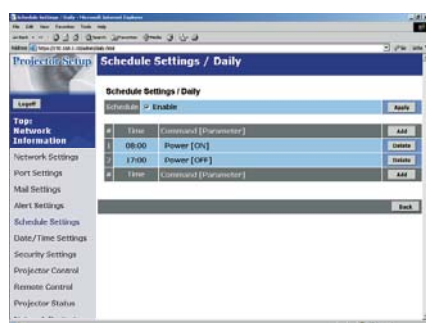
1) Web ブラウザのアドレスバーに [http://192.168.1.10] と入力します。
2) 管理者 ID とパスワードを入力して、[Logon] をクリックします。
3) メインメニューで [Port Settings] をクリックします。
4) [Enable] チェックボックスにチェックを入れて、SNMP ポートを開きます。
エラー / 警告の発生時に SNMP トラップを送信するように、IP アドレスを設定します。

お知らせ ● SNMP トラップのコンフィギュレーション設定を変更したら、ネットワークを再起動する必要があります。 [Network Restart] をクリックし、下記の手順を実行してください。

5) メインメニューで [Security Settings] をクリックします。
6) [SNMP] をクリックして、画面に表示されているコミュニティ名を設定します。

お知らせ ●コミュニティ名を変更したら、ネットワークを再起動する必要があります。
● [Network Restart] をクリックし、下記の手順を実行してください。

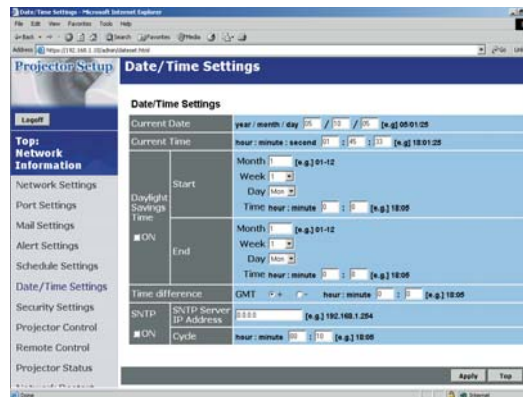
7) エラー / 警告の Trap 送信を設定します。メインメニューで [Alert Settings] をクリックし、設定するエラー / 警告の項目を選択します。
8) [Enable] チェックボックスにチェックを入れて、エラー / 警告の SNMP Trap を送信できるようにします。SNMP Trap の送信が不要であれば、[Enable] チェックボックスのチェックを外します。
9) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

4.6 スケジュール機能でプロジェクターを制御する

スケジュール機能を使用してプロジェクターを自動制御することができます。

お知らせ ●スケジュール設定できるイベントには、電源の ON/OFF、入力映像信号の切替、転送された画像の表示があります。
●スケジューリングの種類は、1) 毎日、2) 曜日、3) 特定日の 3 つです。
●スケジュールしたこれらのイベントの優先順位は、1) 特定日、2) 曜日、3) 毎日の順になります。
●最大 5 つの特定日をスケジュール設定できます。同日の同時間に対して複数のイベントをスケジュール設定した場合、イベントの番号が小さいほど優先順位が高くなります。（例えば、「Specific date No1」の優先順位は「Specific day No.2」以降より高くなります。）
●スケジュール設定したイベントを有効にする前に、必ずプロジェクターの日付と時間を正しく設定してください。

日付 / 時間の設定（📖34）

Web ブラウザから日付 / 時間の設定ができます。
例： プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

1) Web ブラウザのアドレスバーに、**[http://192.168.1.10]** と入力します。
   管理者 ID とパスワードを入力して、**[Logon]** をクリックします。
2) メインメニューで **[Date/Time Settings]** をクリックし、各項目を設定します。（📖34）
3) **[Apply]** ボタンをクリックして、設定を保存します。

お知らせ ●夏時間または SNTP の設定を変更したら、ネットワークを再起動する必要があります。
●日付と時間が正しく設定されているにもかかわらず、時刻設定にエラーが生じた場合、内部クロックの電池切れの可能性があります。 電池を取扱説明書に従って行ってください。
（📖 取扱説明書 – 内蔵時計用電池を交換する）
●内蔵時計の時間はずれてくる場合があります。正確な時間を維持するためには、SNTP を使用することをお勧めいたします。

スケジュール設定（📖32）

Web ブラウザからスケジュールを設定できます。
例：プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

1) Web ブラウザのアドレスバーに、[http://192.168.1.10] と入力します。
2) 管理者 ID とパスワードを入力して、[Logon] をクリックします。
3) メインメニューで [Schedule Settings] をクリックし、必要なスケジュールの種類を選択します。
4) [Enable] チェックボックスをチェックして、スケジュールを有効にします。
5) 特定日のスケジューリングの場合、ここで日付（月 / 日）を入力します。
6) [Add] をクリックして、時間、コマンド、パラメータを設定します。コマンドを追加したい場合は [Add This Schedule] をクリックします。
7) スケジュールを削除したい場合は、[Delete] ボタンをクリックします。
8) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

スケジューリングには次の 3 種類があります。

1) Daily： 指定した操作を指定時刻に毎日実行します。
2) Sunday 〜 Saturday： 指定した操作を指定曜日の指定時刻に実行します。
3) Specific Date： 指定した操作を毎年指定日の指定時刻に実行します。

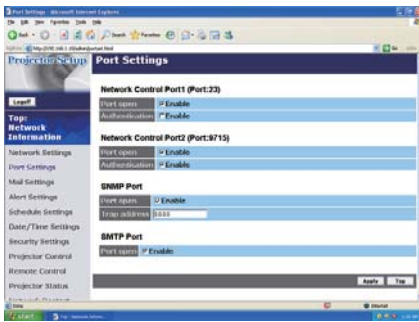
お知らせ ●“Power ON”スケジュールが少なくとも 1 つ保存されていると、スタンバイモードのとき Power インジケータがおよそ 3 秒間周期で緑色に点滅します。
●スケジュール機能を使用しているときは、電源コードがプロジェクターおよびコンセントに接続され、電源スイッチはオン [I] になっていなければなりません。電源スイッチがオフ [O] になっていたり、室内のブレーカーが落ちていると、スケジュール機能は機能しません。プロジェクターに電源が入っているときは、Power インジケータがオレンジ色または緑色に点灯しています。

4.7 静止画転送（写真・静止画の転送）機能について

プロジェクターで、ネットワークから画像を転送して表示できます。

静止画転送には、PC に専用のアプリケーションをインストールする必要があります。このアプリケーションは日立のホームページからダウンロードできます。アプリケーションに関しての説明はアプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

ファイル形式として JPEG、PNG、BMP をサポートします。

4.8 ネットワークからのコマンド制御

RS-232C コマンドを使用し、ネットワークからプロジェクターを設定 / 制御することができます。

通信ポート

コマンド制御には、次の 2 ポートが割り当てられています。
TCP #23
TCP #9715

コマンド制御設定（📖25）

コマンド制御を使用する場合、Web ブラウザから下記の項目を設定します。
例： プロジェクターの IP アドレスとして 192.168.1.10 が設定されている場合：

1) Web ブラウザのアドレスバーに、**[http://192.168.1.10]** と入力します。
2) 管理者 ID とパスワードを入力して、**[Logon]** をクリックします。
3) メインメニューで **[Port Settings]** をクリックします。
4) TCP #23 を使用するために **[Enable]** チェックボックスにチェックを入れて、**[Network Control Port (Port: 23)]** を開きます。このポートの認証が必要なときには、**[Authentication]** 設定の **[Enable]** チェックボックスをオンにします。認証が必要でない場合は、チェックボックスのチェックを外します。
5) TCP #9715 を使用するために **[Enable]** チェックボックスにチェックを入れて、**[Network Control Port (Port: 9715)]** を開きます。このポートの認証が必要なときには、**[Authentication]** 設定の **[Enable]** チェックボックスをオンにします。認証が必要でない場合は、チェックボックスのチェックを外します。
6) **[Apply]** ボタンをクリックして、設定を保存します。

コマンド制御設定 （つづき）

認証設定を有効にする場合、下記の設定が必要になります。（📖36）

7) メインメニューで [Security Settings] をクリックします。
8) [Network Control] をクリックして、認証パスワードを入力します。

お知らせ ●入力した認証パスワードは、[Network Control Port1 (Port: 23)] と [Network Control Port2 (Port: 9715)] のいずれに対しても同じものになります。

9) [Apply] ボタンをクリックして、設定を保存します。

お知らせ ●更新後の設定は、ネットワークの再起動後に有効になります。設定に何らかの変更を加えた場合は、ネットワークを再起動してください。ネットワーク接続を再起動するには、メインメニューの [Network Restart] をクリックします。

コマンド形式

通信ポートによってコマンド形式に一部違いがあります
　TCP #23
RS-232C コマンドと同じものをそのまま使用できます。応答のデータ形式は RS-232C コマンドのデータ形式と同じです。ただし、認証機能が有効になっているとき認証エラーが発生した場合は、以下の応答が返されます。

＜認証エラー発生時の応答＞

応答	エラーコード	
0x1F	0x04	0x00

　TCP #9715

送信データ形式

送信データ形式に､以下のように RS-232C コマンドに加えてヘッダー(0x02)､データ長(0x0D)､チェックサム（1 バイト)、接続 ID（1 バイト）が含みます。

ヘッダー	データ長	RS-232C コマンド	チェックサム	接続 ID
0x02	0x0D	13 バイト	1 バイト	1 バイト

ヘッダー　→ 0x02、固定
データ長　→ RS-232C コマンドのバイト長（0x0D、固定）
RS-232C コマンド　→ RS-232C コマンド、0xBE 0xEF（13 バイト）から開始
チェックサム　→ ヘッダからチェックサムまでの和の下位 8 ビットが 0 となる値です。
接続 ID　→ 0 から 255 までのランダムな値
（この数値は応答データに付加されます。）

応答データ形式

接続 ID（送信データ形式の接続 ID と同じデータ）が、RS-232C コマンドの応答データに付きます。

< ACK 応答>

応答	接続 ID
0x06	1 バイト

< NAK 応答>

応答	接続 ID
0x15	1 バイト

<エラー応答>

応答	エラーコード	接続 ID
0x1C	2 バイト	1 バイト

<データ応答>

応答	データ	接続 ID
0x1D	2 バイト	1 バイト

<プロジェクターのビジー応答>

応答	ステータスコード	接続 ID
0x1F	2 バイト	1 バイト

<認証エラー応答>

応答	認証エラーコード		接続 ID
0x1F	0x04	0x00	1 バイト

接続の自動切断

接続後に 30 秒間通信がなければ TCP 接続は自動的に切断されます。

認証

認証機能が有効になっているとき、認証が正常に行われないプロジェクターはコマンドを受け付けません。プロジェクターの認証には MD5（Message Digest 5）というアルゴリズムが使われています。
プロジェクターが LAN を使用するとき、認証が有効になっていればランダムな 8 バイトが返されます。返された 8 バイトと認証パスワードを結合し、結合したデータを MD5 アルゴリズムで処理して、これをコマンドの先頭に追加し、送信します。

以下は、認証パスワードが"password"に設定され、ランダムな 8 バイトが"a572f60c"である場合の例です。

1) プロジェクターを選択します。
2) プロジェクターからランダムな 8 バイト"a572f60c"を受け取ります。
3) ランダムな 8 バイト"a572f60c"と認証パスワード"password"を結合します。結合した値は"a572f60cpassword"となります。
4) この結合した値"a572f60cpassword"を MD5 アルゴリズムで処理します。
結果、"e3d97429adffa11bce1f7275813d4bde"という値を得ます。
5) "e3d97429adffa11bce1f7275813d4bde"という値をコマンドの先頭に付加し、"e3d97429adffa11bce1f7275813d4bde"＋コマンドというデータを送信します。
6) 送信データが正しければ、コマンドが実行されて応答データが返されます。送信データが正しくない場合、認証エラーが返されます。

5. 故障かな？と思ったら

<table>
<tr><th colspan="3">問題</th><th>考えられる原因</th><th>チェック事項</th><th>参照ページ番号</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">画像が表示されない。</td><td>プロジェクターの電源が入っていない。</td><td>プロジェクターのランプが点灯していますか？</td><td>*19</td></tr>
<tr><td>プロジェクターの映像信号の切替が MIU になっていない。</td><td>プロジェクターが MIU に切り替えられていますか？</td><td>*20</td></tr>
<tr><td rowspan="8">ワイヤレス／有線 LAN</td><td rowspan="8">“ライブモード”</td><td rowspan="2">接続したいプロジェクターがプロジェクターのリストにない。</td><td>PC および（または）プロジェクターのネットワーク設定が正しくない。</td><td>PC とプロジェクターの両方のネットワーク設定をチェックしてください。プロジェクターの設定を変更した場合は、プロジェクターの AC 電源を切って再度入れ直してください。プロジェクターを STANDBY 電源モードにした後に電源を入れ直しただけでは、新しい設定は有効にならないことがあります。</td><td>8, 10, 16</td></tr>
<tr><td>無線信号が弱い。</td><td>• PC とプロジェクターを近づけてください。
• 無線波はコンクリートや金属（スチール・ドアなど）を通過しません。</td><td>–</td></tr>
<tr><td>通信できない。</td><td>プロジェクターが“ライブモード”になっていない。</td><td>“MIU”メニューでモードをチェックし、正しいモードになっていることを確認してください。</td><td>50</td></tr>
<tr><td rowspan="2">投影像の動きが PC 画像の動きよりも遅い。</td><td>プロジェクターは PowerPoint® アニメーションなどのダイナミック画像をフル速度で中継できない。</td><td>キャプチャ性能の優先レベルを上げてみてください。速度が幾分速くなることがあります。</td><td>48</td></tr>
<tr><td>画像転送に使用している圧縮率が低すぎる。</td><td>JPEG Quality を“Low”側に設定してみてください。画質が低下しますが、速度を高めるのに役立つことがあります。</td><td>49</td></tr>
<tr><td>画像ノイズが多い。</td><td>画像転送に使用している圧縮率が高すぎる。</td><td>JPEG Quality を“High”側に設定してみてください。
• 速度が遅くなることがあります。</td><td>49</td></tr>
<tr><td>2 つのカーソルが表示される。</td><td>PC とプロジェクターの両方のカーソルが同時に表示されている。</td><td>“MIU LiveViewer”の“Cursor Emulation”オプションをオフにしてください。</td><td>48</td></tr>
<tr><td>カーソルが表示されない。</td><td>一部の PC では、“MIU LiveViewer”で“Cursor Emulation”を行わないとカーソルが表示されない場合があります。</td><td>“MIU LiveViewer”の“Cursor Emulation”オプションをオンにしてください。</td><td>48</td></tr>
</table>

問題		考えられる原因	チェック事項	参照ページ番号
PC レス	USB メモリ（USB ハードディスク等を含む）、SD メモリカードを挿入した後、サムネイルモードまたはディレクトリモードに切替でも、メモリの中身が表示されない。	USB メモリや SD メモリカードを挿入した後、メモリの情報が更新されていない。	サムネイルモードまたはディレクトリモードを再選択するか、“PC レス プレゼンテーション”メニューを再表示してください。	53, 63
ワイヤレス	通信できない。	ワイヤレスネットワークカードがプロジェクターに差し込まれていない、あるいは SD メモリカードが差し込まれた状態になっている。	プロジェクターに付属のワイヤレスネットワークカードを SD スロットに差し込んでください。	*16
		近くにある別のプロジェクターが同じ無線設定になっている。	SSID と IP アドレスを変更してみてください。	24 *54
有線 LAN	通信できない。	PC および（または）プロジェクターのネットワーク設定が正しくない。	PC とプロジェクターの両方のネットワーク設定をチェックしてください。	11-13
		ワイヤレスネットワークカードがプロジェクターに差し込まれている。	プロジェクターからワイヤレスネットワークカードを抜き取ってください（ワイヤレス / 有線 LAN の両方を同時に使用できません）。	*16
その他 - プロジェクターから PC に正しい（または完全な）情報が送信されない。 - プロジェクターが応答しない。 - スクリーン上の画像が、PC の画像が変わってしばらくしても変わらない。		プロジェクターと PC 間の通信が正常に作動していない。プロジェクターの MIU 機能が正常に作動していない。	“特殊な設定”メニューで“MIU”の“MIU リスタート”を使用してみてください。	*56

* 取扱説明書

6. 仕様

項目	仕様
製品名	液晶プロジェクター
ファイル形式	JPEG、PNG、BMP、MPEG4
制御ソフトウェア	専用の PC アプリケーションおよび Web ブラウザ
対応プロトコル	TCP/IP、DHCP クライアント、HTTP サーバー
ネットワーク	無線 LAN (IEEE802.11g) （AD-HOC モード、および INFRASTRUCTURE モード） イーサーネット（100Base-TX/10Base-T）
セキュリティ	WEP(64/128bit)、WPA-PSK/PSK2(TKIP/AES)、SSID
PC アプリケーションの動作環境	OS： Windows XP Home Edition/ Professional Windows 2000 Professional Service Pack 4 CPU： Pentium III 600MHz 以上（推奨） メモリサイズ： 64M バイト以上 128M バイト以上（XP の場合） グラフィック I/F： DirectX 6.1 以上 ビデオ RAM： 4MB 必要（8MB 推奨） HDD： 10MB CD-ROM ドライブ Web ブラウザ： Internet Explorer 5.5 またはそれ以降のバージョン
SD カード	SD カード（カードによっては対応していない場合があります。）
ワイヤレスネットワークカード	C-guys SD-Link11g
USB	USB1.0 ホスト： Mass Storage Class SBC/BOT タイプ 以下の USB メモリの読み出し / 書き込みが可能 : - USB フラッシュメモリ - USB カードリーダ - USB ハードディスク （それぞれカード・装置によって対応していない場合があります。）

7. 保証とアフターサービスについて

ご使用の装置に問題が生じた場合は、まず“トラブルシューティング”（📖80）を参照し、提示されているチェック項目に目を通してください。それでも問題を解決できない場合は、お買い求めの販売店にご連絡ください。（📖 取扱説明書 - 保障とアフターサービスについて）